

[第 1 号議案]

1-1 . 2012 年度事業報告書

- 1 . 概況：重点活動
 - 2 . 会員の異動状況
 - 3 . 会議等に関する事項（総会，理事会，各種委員会）
 - 4 . 実施事業 1：調査研究活動（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
 - 5 . 実施事業 2：人材育成（定款第 4 条 1 項 4 号）
 - 6 . 実施事業 3：学術講習会の開催（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
 - 7 . 実施事業 4：会誌の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
 - 8 . 実施事業 5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
 - 9 . 実施事業 6：標準化活動（定款第 4 条 1 項 3 号）
 - 10 . 実施事業 7：国際活動（定款第 4 条 1 項 5 号および 2 号）
 - 11 . その他：関連学協会との連絡および協力（定款 4 条 1 項 6 号）
 - 12 . 法人運営
- 付 1 . 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）
 - 付 2 . 研究会および研究発表・学術講習会等一覧
 - 付 3 . 刊行物（会誌・論文誌・図書等）一覧
 - 付 4 . 国際会議一覧
 - 付 5 . 表彰等
- その他・附属明細書

2012 年度 事業報告書

1. 概況および重点活動

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から 2 年が経過した。被災地宮城県の東北大学で開催した全国大会は 1,406 件の講演を得て盛会となった。被災地の訪問を含むワークショップ、震災関連のシンポジウムなどにより改めて震災の記憶を新たにし、情報処理技術による防災、減災、復興支援を考える機会となった。

学会のコアである調査研究活動は、新たに「デジタルコンテンツクリエイション研究会」を発足するなど着実に活動を推進している。実務家向けの活動においては、連続セミナー、ソフトウェアジャパン、デジタルプラクティスで統一テーマ「ビッグデータ」を採り上げることで、参加者の増加につながった。

学会のグローバル化の大きな目標であった英文論文誌 Journal of Information Processing (以下、JIP) のインパクトファクタ取得は、申請までこぎつけたものの今回は取得には至らなかった。今回の経験を活かし、2015 年の再申請に向けた準備を既に進めつつある。

学会の将来の発展には、学生・若手の育成が重要との観点から、学生・若手向けのセミナー、プログラミングコンテストなどのイベント開催、学生無料トライアル会員制度などの施策を今年度から開始した。さらに若手研究者の連携強化・活動の活性化を目的に「情報処理学会 若手研究者の会(以下、若手研究者の会)」を発足した。

社会から「頼られ&相談される学会」となることを目指して、政策提言委員会を新たに設け、国および政策に関する提言、声明の発表、パブコメへの対応などを積極的に行った。

年度末会員数は、昨年度末と比較して正会員は 376 名減少、学生会員は 3 名増加した。財政的には 2012 年度も黒字決算となった。

1.1 学生・若手研究者育成のための活動および体制強化 (6 項, 12 項参照)

各支部から推薦された拠点校の学部学生、ならびに若手奨励賞を受賞した高校生・高専生等を中心に、特別に学生無料トライアル会員制度を設け、より若いうちから学会活動に興味を持ってもらえるよう、試行体制を整えた。2012 年度の本制度適用は約 100 名、2013 年度には約 500 名を予定する。

若手研究者の連携強化・活動の活性化、および日本学術会議の同様の活動の受皿となることを目的として、政策提言委員会の傘下に若手研究者の会を 2013 年 1 月に発足させ、2 月に初回会合を開催した。メンバーは主として研究会から推薦された 30 歳～45 歳程度の若手研究者で構成する。

学生・若手研究者育成のためのイベントを企画開催した。

- ・ゲーム開発者イベント「CEDEC 2012」内の co-located event 開催：8 月 22 日、於 パシフィコ横浜
- ・学生・若手開発者向けオープンソース系セミナー「Exciting Coding」：11 月 14 日、於 楽天タワー
- ・AI プログラミングコンテスト「Samurai Coding 2012」：決勝戦 12 月 9 日、於 東京大学

1.2 政策提言活動の強化 (12 項参照)

政策提言委員会を設け、(a) 長期的な研究のロードマップ作成による学会の方向性の形成、(b) 国の政策および方針に関する積極的提言、(c) 情報系・情報処理教育系の各種パブコメへの積極的対応などを通じて、国および関連機関から「頼られ&相談される学会」を目指して政策提言体制の強化を図るとともに、「番号法案」および「ネット選挙」に関する声明の公表など積極的な情報発信を行った。

今後は、若手研究者の会とも連携して政策提言活動を一層強化する。

1.3 調査研究活動の推進（4 項参照）

学会のコアの活動として研究会による諸活動を推進するとともに、政策提言委員会とも連携し、長期的な研究のグランドデザインおよびロードマップに関する議論、各研究分野からの提言（「将来のスーパーコンピューティングの体制の在り方に関する調査検討 WG」へのアンケート回答（2013 年 1 月））活動などを推進した。

日本学会協議の 2014 年度版のマスタープランへの対応として、学術大型研究計画に関する調査・検討を推進した。

調査研究活動全体の財務基盤強化のため積立資産を設置（2012 年度末）し、2013 年度には個々の研究会活動を越えた活動を展開する。

1.4 実務家・IT プロフェッショナル向け活動の強化（5, 6 項参照）

ソフトウェアジャパン、デジタルプラクティス、連続セミナー・短期集中セミナー、IT フォーラムなど、各種活動を通じて、実務家・IT プロフェッショナル向けの活動を強化した。

高度 IT 人材資格について、制度化に向けたビジョンおよび制度内容などをデジタルプラクティスに掲載するとともにセミナーを開催してその周知に努めた。また、8 月には経済産業省 産業構造審議会「IT 人材育成 WG 報告書中間とりまとめ（案）」に対するパブコメを提出した。

情報処理推進機構（IPA）、情報サービス産業協会（JISA）、日本情報システム・ユーザー協会（JUAS）、電子情報技術産業協会（JEITA）などの実務家・IT プロフェッショナルを対象とする団体との連携をさらに深め、相互会員、イベント協賛などを推進した。

1.5 グローバル化：インパクトファクタ取得対応および海外学協会との連携推進（8, 10 項参照）

英文論文誌 JIP のインパクトファクタ取得に向けて、安定した季刊発行体制の整備と、さらに月刊化に向けた諸施策を実施した。2012 年 4 月にインパクトファクタ取得申請を行ったが、取得に至らず、2015 年の再申請に向けて諸対応を促進する。

研究会活動を中心に海外学協会との連携を推進した。

1.6 会員サービスおよび広報の充実（12 項参照）

学部学生・高校生・高専生を対象とした学生無料トライアル会員制度を試行した（前述）。

オンライン刊行物の新しいビジネスモデルの検討を推進するとともに、ソーシャルメディアを活用した積極的な広報活動を推進した。

会員満足度アンケート調査を実施するとともに、事業評価データの収集・分析・改善を継続して実施した。

1.7 学会運営体制の充実（12 項参照）

実務家・IT プロフェッショナル向け活動強化のための関連委員会の改組、情報規格調査会との連絡会議の設置ほか、役員選挙枠および一部役員候補者推薦母体の見直しなどにより、運営体制の一層の充実を図った。

学会の魅力向上・価値の向上を目指して策定した中長期計画の定期的な見直しを継続し、計画に基づいた諸施策を推進した。

第三者機関であるアドバイザリーボードの助言を得て、諸事業の企画および運営の改善に努めた。

2. 会員の異動状況

| 会員種別 | 会員数 | | 増減数 - | 備考:2012年度の異動 | | | | |
|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|----------|------------|---------|----------|
| | 2012 年度末 | 2011 年度末 | | 入会 | | 退会 | | 資格 喪失 |
| 名誉会員 | 35 | 37 | -2 | 1 | 正会員から異動 | 3 | | |
| 正会員 | 16,531 | 16,907 | -376 | 467 857 | 学生会員から異動 | 1,226 1 | 名誉会員に異動 | 473 |
| 学生会員 | 2,449 | 2,446 | 3 | 1,369 108 | 学生トライアル | 606 857 | 正会員に異動 | 11 |
| 個人会員 計 | 19,015 | 19,390 | -375 | 2,802 | | 2,693 | | 484 |
| 賛助会員 (口数) | 228 (527) | 246 (537) | -18 (-10) | 8 (20) | | 26 (30) | | |

1:入会には復会,再入会を含み,退会には死亡退会を含む。

2:2012年度期末正会員数には終身会員 357名(前年度 355名)を含み,学生会員数にはトライアル制度適用の 103名を含む。

3. 会議等に関する事項(総会,理事会,各種委員会)

総会,理事会をはじめ,法人運営,調査研究活動,人材育成活動,事業活動,機関誌/出版活動,標準化活動,国際活動に関する各種委員会を開催した。詳細は付録1(p.16~p.30)に掲載する。

4. 実施事業1:調査研究活動(定款第4条1項1号および2号)

4.1 研究発表会,シンポジウム・講習会等 [所掌:調査研究運営委員会および各領域委員会]

39研究会,2研究グループにより活動し,研究発表会(158回)およびシンポジウム等(24回)を開催した。詳細は付録2(p.31~p.37)に掲載する。

前年度参考:38研究会,2研究グループ,研究発表会157回,シンポジウム24回

[コンピュータサイエンス領域]

10研究会により,研究発表会(44回),シンポジウム等(9回)を行った。それぞれの研究会が積極的な活動を行っているが,中でも特記事項は次の通りである。

ハイパフォーマンスコンピューティング研究会(HPC)を通じて,HPCIコンソーシアムに参加し,将来のスーパーコンピューティングの体制の在り方に関する意見提出などを行った。

4研究会が合同で,10件を超える企業協賛を得て「先進的計算基盤システムシンポジウム2012(SACSIS:Symposium on Advanced Computing Systems and Infrastructures)」を開催し,スーパーコンピュータ「京」の見学会も企画実施した。

計算機アーキテクチャ（ARC）、システムソフトウェアとオペレーティングシステム（OS）、ハイパフォーマンスコンピューティング（HPC）、プログラミング（PRO）各研究会

若手研究者育成の一環として、国内外の研究者メンターが、メンティである若手研究者の研究に對面で直接コメント・アドバイスを行う形式のワークショップ「データベース、Web、情報マネジメントに関する若手研究者国際ワークショップ(iDB Workshop 2012)」を、データベースシステム研究会(DBS)が継続して開催した。投稿・発表・質疑応答は全て英語で実施した。

優秀な若手会員を顕彰するため、2012年度コンピュータサイエンス領域奨励賞を14名に授与した。

[情報環境領域]

17研究会により、研究発表会(64回)、シンポジウム等(11回)を行った。特記事項は次の通りである。

領域全体の活動として、領域共通の積立金(区分経理上の次期繰越金相当)を運用したプロジェクトを募集し、4件のプロジェクトに2年間にわたり総額150万円を助成することとした。

10研究会が合同で、ネットワークに関する研究分野を対象に、研究者間の深いディスカッションと交友の場となるよう合宿形式による「DICOMO2012シンポジウム」を開催した。

マルチメディア通信と分散処理(DPS)、グループウェアとネットワークサービス(GN)、モバイルコンピューティングとユビキタス通信(MBL)、コンピュータセキュリティ(CSEC)、高度交通システム(ITS)、ユビキタスコンピューティングシステム(UBI)、インターネットと運用技術(IOT)、コンシューマ・デバイス&システム(CDS)、セキュリティ心理学とトラスト(SPT)、デジタルコンテンツクリエイション(DCC)各研究会

4研究会が合同で「インタラクション2012シンポジウム」を開催した。実システムのデモを通じて発表者と参加者との双方向的なコミュニケーションを重視したインタラクティブ発表などは毎年好評を博し、今回も500名を超える参加者を得て盛会であった。

ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI)、グループウェアとネットワークサービス(GN)、ユビキタスコンピューティングシステム研究会(UBI)、エンタテインメントコンピューティング(EC)各研究会

新規分野として「デジタルコンテンツクリエイション研究会」が発足し、2013年度からはトランザクションも発行することとなった。また、2013年度から、システム評価(EVA)研究会とインターネットと運用技術(IOT)研究会が統合して活動することを決定した。さらに、ネット選挙に対する意見集約を行った。

[メディア知能情報領域]

12研究会、2研究グループにより、研究発表会(50回)、シンポジウム等(4回)を行った。

電子情報通信学会と共催で「画像の認識・理解シンポジウム」を開催(今回は電子情報通信学会が主)し、若手プログラムを組むなど、毎年500名を超える参加者を得ている。

ゲーム開発者イベント「CEDEC2012(Computer Entertainment Developers Conference; 8月20日~22日パシフィコ横浜)」に連携して、複数研究会による「CEDEC 2012 co-located event」を同時開催(8月22日)した。

研究者同士の交流およびFIT参加者数増加を見込み、FITの前後に開催地周辺で研究発表会の開催を試みる呼びかけを行った。

4.2 その他

(1) グローバル化への対応

7月に開催された各領域委員会にて、各研究会に、時代への変化の対応としての新規分野の開拓およびグローバル化に向けた取り組み等に対する意見を提出するよう依頼、その後10月の調査研究運営委員会

にて集計結果を審議，各研究会の取り組みを確認し，理事会の考えるグローバル化と領域が考えるグローバル化が同じベクトルであるかなど役員検討会に課題提起を行った。

(2) 表彰

優れた研究発表および業績等に対して，山下記念研究賞，長尾真記念特別賞，喜安記念業績賞，若手奨励賞を贈呈した。詳細は付録 5 (p.45～p.47) に掲載する。

5．実施事業 2：人材育成（定款第 4 条 1 項 4 号）

5.1 情報教育カリキュラムの策定 [所掌：情報処理教育委員会]

「教育ビジョン 2011」で掲げる活動指針「誰もが情報技術に主体的に向き合う社会の実現をめざして」に基づいて，以下の施策を行った。

(1) 次期カリキュラム標準への着手

大学院・学部の専門情報教育（副専攻情報教育を含む）から，初中等との連携も加味した一般情報教育までを俯瞰し，J17 の基幹方針を検討し，次年度の時限ワーキンググループ新設を決定した。

(2) 情報専門学科におけるカリキュラム標準（J07）のフォローアップ

J07 の普及・改訂，教科書など教材の整備・提供・普及などを引き続き行った。

大学の情報系学科における達成度レベル調査，および産業界の要求レベル調査を行い，結果の概要を学会誌 10 月号「ぺた語義」コラムにて報告した。

調査結果の最終報告を，全国大会シンポジウム（2013 年 3 月）「大学教育と産業界での人材育成の連続化に向けて～情報専門教育，カリキュラム標準，資格制度，スキル標準の有機的連携～」にて行った。

(3) 初中等教育での情報教育支援

「会員の力を社会につなげる」研究グループ（SSR）と連携して，高校の先生方に対する支援方法の検討を行った。その結果に基づき，高校の先生方に大学の授業を体験受講していただく活動を 7 月に実施した。

「情報入試研究会」と連携して，高校教科「情報」のための入試問題の検討を行い，成果を高校教科「情報」シンポジウム（10 月）で公開した。

高校「情報」WG とともに，教科「情報」の次期指導要領に望まれる内容・カリキュラム構成を検討し，「試作教科書 2012「情報 I」」として取りまとめ，高校教科「情報」シンポジウム（10 月）で公開した。

文京区教育委員会と連携し，教育センターのパソコン教室におけるプログラミング関連の教材開発を支援し，教員対象の「ICT リーダ研修」に協力した。

初中等教育現場関係者の学会活動に関する興味を喚起し，学会主催イベントへの参加を促すため，学会誌上で教育関連記事「ぺた語義」の掲載を継続した。

5.2 アクレディテーション（技術者教育プログラムの認定） [所掌：情報処理教育委員会]

日本技術者教育認定機構（JABEE）委託の認定評価を行った（1 校）。JABEE 受審を検討する教育機関に対して JABEE 認定の普及へ向けて，審査講習会の開催および個別相談・助言の機会を提供するため，JABEE 認定普及活動規則を定めた（8 月）。

- 5.3 資格制度** [所掌：高度 IT 人材資格検討 WG，個人認証試行準備 WG，企業認定制度設計 WG]
- 昨年度作成した資格認証制度の試案に基づき 2013 年度の試行を目指して次の検討を行った。また，IP3 のボードメンバー会議（9 月，アムステルダム）に出席して制度設計の現状を報告した。
- ・ 資格認証制度の規定および付属の様式の完成度向上に向けた検討
 - ・ 企業内評価制度との摺り合せに関する検討
 - ・ 試行に向けたビジネスモデルおよび運用などに関する検討
- 次のような機会を通じて，高度 IT 人材資格制度の認知と意見収集を図った。
- ・ FIT イベント企画「高度 IT 資格制度「情報処理学会モデル」」（9 月）
 - ・ 短期セミナー「高度な IT 人材の育成を加速するために」（10 月）
 - ・ ソフトウェアジャパン 2013 セッション「情報システムユーザーの期待に応える高度 IT 資格制度の創設に向けて」（2013 年 2 月）
 - ・ 全国大会イベント企画「大学教育と産業界での人材育成の連続化に向けて～情報専門教育，カリキュラム標準，資格制度，スキル標準の有機的連携～」（2013 年 3 月）
- 経済産業省 産業構造審議会「IT 人材育成 WG 報告書中間とりまとめ（案）」に対するパブコメを提出した（8 月）。

5.4 その他 [所掌：情報処理教育委員会]

(1) 関連するシンポジウムおよび講習会の開催等

付録 2（p.37）に掲載する。

(2) 表彰

高校生および高専生等を対象とするコンテストの後援と若手奨励賞の授与を行った。また，優れた教育の実践等を顕彰するため優秀教育賞を贈呈した。詳細は付録 5（p.47）に掲載する。

(3) 情報入試 WG の設置

高校教科「情報」のプレゼンス向上および共通の土台となる評価指針の開発を目指す「情報入試研究会」の活動を学会の公式の事業として実施するため，情報処理教育委員会配下に作業部会「情報入試 WG」を設置した。

(4) その他

科学技術振興機構（JST）の「Web ラーニングプラザ」教材制作の委託を受け，「データマイニング」を制作した。

6．実施事業 3：学術講習会の開催（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

各開催状況の詳細は付録 2（p.37～p.38）に掲載する。

6.1 全国大会 / FIT

(1) 第 75 回全国大会 [所掌：全国大会組織委員会]

第 75 回全国大会を 2013 年 3 月 6 日～8 日に東北大学川内キャンパスで開催した。本大会では，通常の一般セッション，学生セッションに加えて大会招待講演企画，大会イベント企画，展示会などのイベントを開催した。さらに，記憶も新しい東日本大震災の被災地となった東北（仙台）での開催ということで

本大会開催の前日に今後の情報ライフラインを考えるためのワークショップ（石巻コース，名取コース）も実施した。また，本会のプレゼンス向上を図るべくできるだけ多くの方に参加してもらえよう，前回大会に引き続き通常の有料での大会聴講参加に加えて「大会イベント企画限定聴講参加（参加費無料）」の参加枠を設けた。講演件数は 1,406 件（一般セッション 337 件，学生セッション 1,069 件），総参加者数は 2,759 名であった。

前年度参考：講演件数 1,478 件，総参加者数 2,864 名

(2) 第 11 回情報科学技術フォーラム (FIT2012) [所掌：FIT 運営委員会]

FIT2012（第 11 回情報科学技術フォーラム）を，2012 年 9 月 4 日～6 日に法政大学小金井キャンパスにおいて開催した。講演件数は 573 件，総参加者数は 1,452 名であった。

前年度参考：講演件数 826 件，総参加者数 1,610 名

(3) 表彰 [所掌：全国大会組織委員会]

優れた発表を顕彰するため，全国大会優秀賞・奨励賞などを贈呈した。詳細は付録 5（p.47～p.49）に掲載する。

6.2 連続セミナー/ソフトウェアジャパン/プロシン

(1) 連続セミナー2012 [所掌：セミナー推進委員会]

「ビッグデータとスマートな社会」を全体テーマとし，年度内に全 6 回開催し，本会場（東京）延べ 710 名，遠隔会場（大阪）延べ 269 名の参加があった。

なお，今年度より実施したセミナーの遠隔会場中継（前半の 3 回分はトライアル）は，関西支部の協力を得て円滑に開催することができた。

前年度参考：全 6 回，延べ参加者数 414 名

(2) 短期集中セミナー [所掌：セミナー推進委員会]

年度内に，次の 2 件の短期集中セミナーを開催した。

高度な IT 人材の育成を加速するために～求められる人材像とその評価～（10 月）

Exciting Coding ～IT スペシャリストが語るシステム開発の面白さ～（11 月）

(3) ソフトウェアジャパン 2013 [所掌：IT フォーラム推進委員会]

「ビッグデータ」をキーワードに，連続セミナーおよびデジタルプラクティスとテーマを連携して「ビッグデータの潮流を探る」として開催した。

今回から，テーマにもとづいた「メインセッション（午後開催）」を有料化，IT フォーラムならびに関連団体がそれぞれに企画をする「IT フォーラムセッション（午前開催）」は無料，という形で一日を午前と午後に切り分けて実施した。

総参加者数 594 名（メインセッション 313 名，IT フォーラムセッション 375 名，重複含む）

スポンサー：6 団体，サポーター：32 団体

前年度参考：参加者数 415 名，スポンサー：5 団体，サポーター：31 団体

(4) プログラミング・シンポジウム [所掌：事業運営委員会]

年度内に 3 回（第 54 回プログラミング・シンポジウム，夏のプログラミング・シンポジウム，第 45 回情報科学若手の会）のシンポジウムを開催した。

6.3 ITフォーラム [所掌：ITフォーラム推進委員会]

ソフトウェアジャパン 2013 の IT フォーラムセッションにおいて、関連団体 との連携イベントを推進した。

情報処理推進機構 (IPA)、情報サービス産業協会 (JISA)、日本情報システム・ユーザー協会 (JUAS)、電子情報技術産業協会 (JEITA)、先端 IT 活用推進コンソーシアム (AITC)、科学技術振興機構社会技術研究開発センター (JST RISTEX)

実務家向け論文誌「デジタルプラクティス」ならびに高度 IT 人材資格検討 WG との連携を強化した。

6.4 コンピュータ将棋『あから』強化推進 [所掌：「あから」強化推進委員会]

ゲーム開発者イベント「CEDEC 2012 (前 4.1 項参照)」において、コンピュータ将棋が人間のトップよりも強くなった後にどのような事態が起きるかについてのパネル討論を行った。パネリストとしてコンピュータ将棋『あから』強化推進委員会委員の関係者が参加した。

2010 年に開発した「あから 2010」の改良と、人間との対戦を通しての現在のコンピュータ将棋の弱点を明確化し、人間のトップに勝つための必要な技術について検討することを目的として電気通信大学と共同研究を行った。

日本将棋連盟の関係者と、トッププロ棋士とコンピュータの対戦の進め方について面談して意見交換を行い、1, 2 年後にトッププロ棋士とコンピュータとの対戦を実施することが実力的に適当であるという共通認識が得られた。

スポンサー候補と目されるいくつかの企業に対してトッププロ棋士とコンピュータの対戦への協力を要請した。

6.5 AI プログラミングコンテスト [所掌：プログラミングコンテスト委員会]

学生および若手技術者の育成を目的として、世界規模の対戦型プログラミングコンテスト「Samurai Coding2012」を開催 (世界 3 地域 EMEA, APAC, JP で予選を行い、日本で決勝戦) した。

決勝戦は、各地域の予選を勝ち抜いた EMEA:1 チーム, APAC:2 チーム, JP:9 チームの全 12 チーム 33 名 (1 チーム約 3 名) で、2012 年 12 月 9 日 (日) に東京大学本郷キャンパスで開催し、1 位から 3 位を JP チームが独占する結果となった。参加者は決勝進出チームメンバーを含め 48 名であった。

6.6 各支部による支部連合大会、講習会等の開催 [所掌：各支部]

付録 2 (p.39) および付録 5 (p.48) に掲載する。

7 . 実施事業 4 : 会誌の刊行 (定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号)

発刊状況の詳細は付録 3 (p.40) に掲載する。

7.1 会誌「情報処理」 [所掌：会誌編集委員会]

(1) コンテンツ

会誌「情報処理」第 53 巻 5 号から第 54 巻 4 号まで計 12 号 (本文 1,328 ページ, 広告 64 ページ, 平均発行部数 19,053 部 / 号) を編集発行した。

「読まれる学会誌」を目指して、会員サービスという観点からも、会員増という観点からも学会誌をさらに面白いものにするべく編集を心がけた。

5月号で特集「CGMの現在と未来」を企画し、表紙に初音ミクを掲載したところ話題となり、会誌が完売したため、特集の別刷をAmazon他で販売（1,450部完売）して収入増にも貢献した。

8月号特集「スーパーコンピュータ「京」」以降、毎月特集の別刷をAmazonで販売することとした。

8月号に夏休み企画として特集「3Dプリンタで遊ぼう」を掲載した。

Webとの連動企画として、10月号「研究会推薦博士論文速報」では本誌に簡略版、Webに詳細を掲載するという試みを行った。

コラム「IT先生、エジプトでITを教える」を8月号から1月号まで掲載した。その他、著名人による「巻頭コラム」、シニアコラム「IT好き放題」を引き続き掲載した。

印刷コストと郵送料を勘案し、5月号から用紙を変更した。また特集は原則2色刷りとし、適切なページ数での編集に努めた。

表紙のデザインを公募し、1月号から刷新した。

(2) その他、広報・宣伝の充実および編集体制の改善

冊子版に掲載された広告をWebカタログとしてホームページ上に掲載するサービスを開始した。

学生向けの「就職情報」については順調な掲載がなされた。

編集委員の構成を含めてWGを再編し、企画を出しやすい体制とした。

8. 実施事業5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第4条1項1号および2号）

各発刊状況の詳細は付録3（p.40～p.42）に掲載する。

8.1 論文誌（ジャーナル/JIP/トランザクション/デジタルプラクティス）

(1) 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊） [所掌：ジャーナル編集委員会]

論文の充実（論文投稿数の増加に向けた取り組み）

論文誌（一般論文、特集号論文）の月刊体制を維持し、339編（含JIP preprint 78編）が掲載された。招待論文を5編および特集号を16号発行した。また研究会、支部および理事会に推薦論文の推薦依頼を行って、32編の推薦論文を採録した。

論文の質、査読の質の向上（採択数の増加に向けた取り組み）

投稿者へのサービス向上のために別刷サービスを開始した。投稿・査読・編集および論文誌関連の規定を整理および更新して明文化した。

論文査読管理システム（PRMS：Paper Review Management System）の運用

PRMS新バージョンの本格運用を開始し、オンライン編集作業を実施した。発見されたPRMSの不具合の修正および改修を迅速に行った。

電子化を有効活用した改善

論文誌関連の統計情報を取得して、論文のアクセスの検討と今後の施策をたてた。またマルチメディア論文の受付、査読および掲載についての規定を整備して受け入れ態勢を確立した。

(2) 「Journal of Information Processing（JIP）」（季刊） [所掌：JIP編集委員会]

JIPの海外投稿促進と国際化

季刊の発行を軌道にのせ、国際化に向けての管理運営体制を整備した。また、年間論文採録数の目標72編に対して、採録件数は78編になり月刊化の実現に前進した。インパクトファクタ取得に関しては、

申請までこぎつけたものの今回は取得には至らなかった。今回の経験を活かし、2015年の申請に向けた準備を開始した。編集委員に海外の研究者を迎え入れて国際化された編集委員会を本格化させた。国際会議の優秀論文および著名な研究者の招待論文を5編掲載した。JIP掲載の無料を有効活用して英語論文の投稿を増加させた。

論文査読管理システム（PRMS：Paper Review Management System）の英語での運用

海外の研究者を編集委員に迎えて、海外からの投稿を受け付けることを前提に論文の投稿、査読、採否決定等一連の作業をPRMSの英語版で運用を開始した。PRMSシステムの運用経験をもとにして、要望の多かった機能の追加および改修を行った。

情報関係学会英文論文合同アーカイブズ（IMT：Information and Media Technologies）の刊行体制の維持
IMTの編集運営会議幹事学会として、編集および定期的刊行を実施した。

(3) トランザクション（8誌） [所掌：各トランザクション編集委員会]

研究会が編集した「情報処理学会論文誌（トランザクション）」8誌を年度内に計30号発行した。学会としての論文誌の方針を説明し、各トランザクション編集委員会で今後のトランザクションの方向性を今後も引き続き検討する。

(4) 実務活動の論文誌「情報処理学会デジタルプラクティス」 [所掌：デジタルプラクティス編集委員会]

論文誌「デジタルプラクティス」通巻10号～13号の特集号企画と編集、投稿論文の審査・共同推敲を行った（招待論文22編、特集号投稿論文9編、一般投稿論文5編を掲載）。

デジタルプラクティス（以下、本項ではDP）著者に、より強い動機をもってクオリティの高い論文を執筆していただくために、DPアワードを選定し、ソフトウエアジャパン2013にて授賞式を行った。

また、Vol.2, No.3に掲載された論文著者が第60回電気科学技術奨励賞（旧オーム賞）を受賞した。

紙面レイアウトを刷新すべく、2013年4月号以降用の紙面レイアウトを作成した。また、合わせて表紙デザインの公募を行い、表紙を決定した。

学会が推進する事業の一つとしてDPのあり方を継続的に議論した。具体的には、紙冊子を廃止した完全電子化、ダウンロード版の有料化、掲載料の有料化、別刷代の策定等である。またそのために読者・著者モニタリング手法の強化を検討した。

次のような関連活動との連携を試みた。

- ・減災ICT特集（7月号）について、会誌の観光情報特集（会誌11月号）と共通するゲストエディタを迎えて同時に発行した。
- ・ソフトウエアジャパンならびに連続セミナーと連携して、ビッグデータ特集（1月号）を組み、ソフトウエアジャパンで配布した。
- ・高度IT人材特集号（4月号）を、短期集中セミナー「高度なIT人材の育成を加速するために～求められる人材像とその評価～」（前6.2項参照）のテキストとして配布した。
著者向けに別刷の販売を開始した。またAmazonおよびFujisanでDPの販売を開始した。

(5) その他

各誌の優れた論文を顕彰するため、論文賞、DPアワード等を贈呈した。詳細は付録5（p.44, p.49）に掲載する。

8.2 専門誌：教科書シリーズ [所掌：出版委員会]

“IT Text”シリーズの編集を進め、「数理最適化」1冊を刊行した。

8.3 用語解説等の無料公開（歴史資料，コンピュータ博物館の公開を含む）

(1) 歴史資料の保存・公開 [所掌：歴史特別委員会，コンピュータ博物館小委員会]

「情報処理技術遺産」8件，「分散コンピュータ博物館」1件の関連調査と認定を行った（情報処理技術遺産累計：63件，分散コンピュータ博物館累計：7件）。詳細は付録5（p.48）に掲載する。

「コンピュータ博物館」の充実を図った（4月～3月のアクセス数 653,000件，転載数 14件）。

オーラルヒストリー3件を会誌に掲載した。

全国大会で特別セッション「私の詩と真実」を行った。

全国大会で分散コンピュータ博物館の見学ツアーを行った。

古い機器の譲渡申込みへの対応など遺産の保存につながる活動を行った。

8.4 電子図書館事業の推進 [所掌：デジタルコンテンツ事業検討委員会]

電子図書館の統合，購読員・法人会員向け CD-ROM の廃止と法人アカウントによるオンラインサービスへの移行を計画した。

「新電子図書館サービス&ビジネスモデル」について検討を行い，2013年度サイトライセンスの試行を行う。

9 . 実施事業 6：標準化活動（定款第 4 条 1 項 3 号）

9.1 情報規格調査活動 [所掌：情報規格調査会]

(1) 国際標準化中心メンバーとしての貢献

昨年度から引き続き，メディア符号化（SC29），デジタル記録媒体（SC23），文字コード（SC2）などの重点領域の委員会議長，幹事国などの国際役職引き受けを継続するとともに，国の代表として，JTC1 総会（11月韓国）に出席し，審議プロセス・組織の見直し，新規標準化領域などの議論に参加した。

今年度の引き受け件数は，議長 3 件（19SC 委員会中），セクレタリアート 4 件（19 委員会中）で昨年と変化なし。その他，コンビーナ（各 SC 委員会傘下の WG 主査）15 件（103WG 中，昨年比 1 件減），プロジェクトエディタ 123 名（昨年 10 名増加）と昨年同様に貢献した。

重要な標準化領域に対しては新たな会員の参加を促しつつ積極的に貢献している。クラウド関係の SC38 ではボキャブラリおよび参照アーキテクチャに関する ITU-T との連携プロジェクトが活動を開始した。また，Internet of Things に関する特別作業グループが設立され国内対応委員会を組織した。

日本提案による国際標準化の推進としては，新業務項目（NP）の提案（承認済）7 件，国際標準（IS）などの発行されたもの 5 件などである。

国際会議の日本での開催： SC 34/WG 2，および SC 23/JWG 1 の 2 件の国際会議を開催した。

(2) 健全な情報規格調査会の運営の維持

活動の収支バランスを図るために運営方法の改善を行った。賛助員会費を参画する専門委員会数に応じた額とする規定および規定実施細則の改変を実施した。また，標準化活動の戦略的な活性化を図ることを目的として，専門委員会毎に予算枠を設ける施策を実施した。

国際標準化活動への参加・貢献の割合をできる限り維持することに努めた。323 回の標準化国際会議への参加者は，延べ 1,126 人とほぼ昨年並みを維持した。

2011 年度に実施した規格運営諮問委員会の答申結果を受け、本部と情報規格調査会との連絡会を設置し、年 4 回会議を実施した。本部との規程の整合化、運営方法の改善、ホームページ改訂、予算策定など、情報共有を図りつつ運営を推進した。

(3) 広報活動とセミナーの実施

刊行物「情報技術標準 NEWSLETTER」：季刊誌（年 4 回）および別冊（年 1 回）を発行した。

情報技術標準化フォーラム（2012 年 5 月 21 日）：「データセンターの効率化に向けた国際標準化活動」と題し、江崎浩東京大学教授を迎え講演会を実施した。

(4) 表彰

標準化関連活動への貢献を顕彰するため、標準化貢献賞等を贈呈した。詳細は付録 5（p.49）に掲載する。

10 . 実施事業 7 : 国際活動（定款第 4 条 1 項 5 号および 2 号）

10.1 関連する海外学協会との連携・協力

(1) IEEE-Computer Society との連携・協力

IEEE-CS と本会が founder(毎年共催 ,12 回目)の国際会議「The 2012 Symposium on Applications and the Internet(SAINT2012)」を 2012 年 7 月 16 日 ~ 20 日にイズミール(トルコ)において「 Computer Software and Applications Conference 2012 (COMPSAC2012) 」と合同で開催した。

第 75 回全国大会において IEEE-CS 会長 David Alan Grier 氏が招待講演を行った。

演題「Crowdsourcing, Social Computing and the New Methods of Computer Science」

(2) 海外学協会との連携・協力

The Korean Institute of Information Scientists and Engineers (KIISE) との連携・協力
古川会長が訪韓し 38th KIISE Fall Conference において基調講演を行った。

演題「Smart Growth and IPSJ」

他の海外学会との協力関係の継続

- ・ The Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE)
- ・ Association for Computing Machinery (ACM)
- ・ Computer Society of India (CSI)
- ・ Association Francaise des Sciences et Technologies de l'Information (ASTI)
- The International Association for Pattern Recognition (IAPR) 活動への参加

(3) International Federation for Information Processing (IFIP) 活動への参加 [所掌 : IFIP 委員会]

IFIP 日本代表ならびに TC-Chair の総会 General Assembly (GA) ・理事会 Council への参加
IFIP 総会 (9 月 28 日 ~ 29 日 , アムステルダム (オランダ)) に齊藤 IFIP 日本代表が参加した。

各 TC 日本代表の TC-meeting への参加

IFIP 活動の周知

会誌 (3 月号) への活動報告 , 会議レポートの掲載のほか , メールニュース , Web を利用した情報発信を行った。

(4) 国際会議の開催 (5 件)

開催状況の詳細は付録 4 (p.43) に掲載する。

11. その他：関連学協会等との連絡および協力（定款4条1項6号）

11.1 関連学協会・日本学術会議

(1) 電気・情報関連学会連絡協議会への参加

電気・情報関連学会連絡協議会に参加し、会員数の変動状況など共通の問題について意見交換を行った。

(2) 日本工学会への参加

「震災復興支援シンポジウム（4月）」での白鳥前会長の講演、会長懇談会への参加など、日本工学会に参加し、関連学協会の共通の問題について意見交換を行った。また、日本工学会主催の世界工学会議（WECC2015；2015年開催）の開催に協力している。

(3) 研究発表・学術講習会等の共催

電子情報通信学会との共催による「情報科学技術フォーラム（FIT）（前6.1項参照）」ほか、研究発表会および学術講習会において関連学協会等と適宜共催を行った。

(4) 日本学術会議など関連団体等への協力

日本学術会議協力学術研究団体として、2014年度版マスタープラン策定のための学術大型研究計画に関する調査など、日本学術会議の活動に協力した。

11.2 会議の協賛後援等

(1) 国内会議の協賛・後援等

「ヒューマンコミュニケーションシンポジウム2012」（電子情報通信学会主催、2012年12月10日～12日）ほか、関連学協会等の会議の協賛・後援等を行った。

(2) 国際会議の協賛・後援等

「第6回プロジェクトマネジメント学会主催国際会議」（プロジェクトマネジメント学会主催、2012年10月3日～5日）ほか、関連学協会等の会議の協賛・後援等を行った。

12. 法人運営

12.1 入会促進・広報活動

(1) 会員減の防止と新規会員の取り込み

会員減対策として以下の施策を実施した。正会員の減少は依然継続しているものの、2006年度の811名減に対し2012年度には376名減まで抑制された。

各活動において学会の価値向上策に取り組むとともに、理事を中心に、新規会員の勧誘および退会防止に努めた。

ソフトウェアジャパンの開催、デジタルプラクティスの刊行など実務家に向けた活動を推進した。

会費滞納による資格喪失の防止策として、会費の口座引落等の推進を継続するとともに、クレジットカード決済も4月から新規導入した。

(2) 学生会員の獲得と育成

学部学生、高校生、高専生向けの学生無料トライアル会員制度の試行を開始した。今後は、対象校を

各支部の拠点校として育成する。

研究会ならびに支部の協力により新規学生会員の獲得活動を実施し、学生会員の正会員への移行・定着の施策として1研究会への無料登録を継続した。

学生会員入会促進のベストプラクティスとして、岩手県立大学、立命館大学、名古屋工業大学の活動を支部長会議等の場で紹介した。

第75回全国大会（東北大学）を契機に、東北支部と全国大会現地実行委員会が中心となり、積極的な学生会員の入会促進を行った。

(3) 学会活動の広報強化

Twitter, Facebook, Ustream などのソーシャルメディアの活用による情報発信を推進した。

各種行事等の場における入会促進、電子メールによる学会紹介、IP SJ メールニュースの充実等の広報活動の充実に努めた。また、情報関連展示会の場において本会の活動を紹介した。

12.2 政策提言活動の強化 [所掌：政策提言委員会（2012年11月までは政策提言WG）]

情報処理に対する一般社会の価値認識を高めるとともに、学会の存在感の向上を図り、国および関連機関から「頼られ&相談される学会」を目指して政策提言体制の強化を図った。

(1) 長期的な研究のロードマップ作成による学会の方向性の形成

研究会の協力を得て、長期的な研究のロードマップを作成した。今後、一般にも理解されやすいような表現と見せ方を継続して検討する。

(2) 国の政策および方針に関する積極的提言

国の政策および方針に積極的に関与するべく関連省庁との定期的な意見交換を開始するとともに、日本学術会議の2014年度版のマスタープランへの対応として、学術大型研究計画に関する調査・検討を推進した。

(3) 若手研究者の会の発足

若手研究者の連携強化・活動の活性化、および日本学術会議の同様の活動の受皿となること等を目的として、政策提言委員会の傘下に若手研究者の会を発足させ、2月に初回会合を開催した。今後、日本学術会議の関連活動および各省庁とのヒアリングを通じて、若手研究者の育成と政策提言体制の強化を図る。

(4) 情報系の各種パブコメへの積極的対応

2012年度中に次の意見を公開した。

- ・経産省産業構造審議会「IT人材育成WG報告書中間とりまとめ（案）」に対する意見（2012年8月）
- ・「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律案（番号法案）」に対する声明（2013年3月）
- ・「インターネットによる選挙運動を解禁する公職選挙法改正案」に対する声明（2013年3月）

12.3 運営体制の充実・改善等

(1) 組織・選挙制度等の見直し・改善

実務家・ITプロフェッショナル向け活動を統括する技術応用運営委員会の設置、技術応用担当理事の設置などにより、活動体制の強化を図った。

本部と情報規格調査会との連絡会を設け、相互連絡体制の強化を図った。

役員選挙枠および役員候補者推薦母体の一部見直しにより運営体制の充実を図った。

(2) 中長期計画の具体化と推進

学会の魅力・価値の向上を目指して中長期計画を策定することにより各事業のスケジュールの明確化を図り、諸施策の着実な実施を推進した。

(3) 諸活動の評価のためのデータ収集の継続

会員の入退会、大会・セミナー等への投稿・申込み状況、会誌等のモニター会員による評価など、関連データの収集・分析を継続し諸活動の評価・改善に努めた。

(4) アドバイザリーボードへの対応

第3期メンバーによるアドバイザリーボードミーティングを2012年10月に開催した。ボードメンバーからの助言は、組織の見直しおよび中長期計画の策定などに反映させるとともに、実施事業の企画および運営の改善に役立てた。

(5) 2011年度監事付帯意見への対応

2011年度監事付帯意見(2012年6月開催の第573回理事会に監事が提出)について、改善策の検討ならびに学会運営および中長期計画への反映などの対応を実施し、結果を581回理事会(2013年4月)で報告した。監事付帯意見は、理事の担務変更に関する円滑な業務移行、会員減に対する取り組み、論文誌についての取り組み、規格標準化についての取り組み、調査研究についての取り組み、各種イベントについてのPDCAサイクルの実施の6項目から成り、全てに対し検討・対応を実施した。

(6) 著作権関連 [所掌：著作権委員会]

著作権侵害の扱いについて審議した。

(7) 電子化の推進 [所掌：学会システムWG]

論文査読管理システム(PRMS)の機能追加および改善によって、ユーザビリティの向上を行った。研究報告、シンポジウム論文の電子投稿受付システムの運用を開始した。会員サービス向上と会員制度の見直しに向けて学会情報システムの仕組みを検討した。BCP対策を検討し、学会が保有する情報のバックアップ方法を見直した。マネジメントシステムにクレジットカード決済自動入金機能を追加した。

12.4 その他表彰等

(1) 顕彰、名誉会員・フェローの選定など

功績賞、学会活動貢献賞の贈呈のほか、フェロー認定、情報処理技術遺産・分散コンピュータ博物館の認定等を行った。詳細は付録5(p.44)に掲載する。

(2) 事務局職員

事務局常勤職員の年度末在籍者は30名(本部20名、規格10名、前年末は28名)である。

以上

| | | |
|---|--|---|
| <p>議長：古川一夫（会長）</p> <p>議決可能理事数：全議案とも23名 出席理事数：20名</p> | <p>< 審議事項 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 企画政策委員会関係 [副会長] <ol style="list-style-type: none"> 2012年度第1回企画政策委員会議事録 2011監事付帯意見への対応依頼 中長期計画 / 会員増の施策 / 財務改善対応 政策提言WG関係 [副会長] <ol style="list-style-type: none"> 第4回政策提言WG議事録 参考資料：学術会議マスタープランほか <p>< 報告事項 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 会員の状況（2012年6月現在） [総務] 第101回総務財務運営委員会議事録 [総務] 支部HPのWebサーバ設置 [総務] 学会Monthly統計資料 [総務] 世界工学会議WECC2015国内組織委員 [総務] 第164回会誌編集委員会議事録 + モニタ評価 + 特集予定 [会誌] 論文誌（ジャーナル・JIP）特集号スケジュール表 [論文誌] デジタルプラクティス特集一覧 / アクセス数 [技術応用] 第27回高度IT人材資格制度設計WG議事録（最終回） [技術応用] 第74回全国大会総括議事録 [事業] | <p>確認 依頼 確認</p> <p>確認 確認</p> |
| <p>決議の省略・報告の省略 2012年7月23日（監事確認日）</p> <p>議決可能理事数：全議案とも23名</p> | <p>< 法令および定款により理事会決議があったものとする事項 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 2012年7月の新規入会申請 [総務] プライバシーポリシーの一部改訂 [総務] 国内会議の協賛・後援等依頼 [事業] シンポジウム等の開催願い [調査研究] 情報規格調査会委員の変更 [標準化] <p>< 法令および定款により理事会報告があったものとする事項 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 2012年6月期開催会議 [総務] 2012年6月月次損益管理報告 [財務] 第102回総務財務運営委員会議事録 [総務] 2012年度フェロー選定手順 [総務] 学会システムMonthly統計資料 [総務] 第385回論文誌ジャーナル / JIP編集委員会（幹事会）議事録抜粋 [論文誌] 技術応用緊急会議議事録 [技術応用] 第1回技術応用運営委員会議事録 [技術応用] 第1回ITフォーラム推進委員会議事録 [技術応用] 第30回デジタルプラクティス編集委員会議事録・特集予定 [技術応用] 平成24年度電気科学技術奨励賞（旧オーム賞）の推薦 [技術応用] 第76回全国大会組織委員会議事録 [事業] 2012年度第2回情報処理教育委員会議事録 [教育] 第1回本部・規格連絡会議議事録 [標準化] 第289回規格役員会報告 [標準化] | <p>承認 承認 承認 承認</p> <p>確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認</p> |
| <p>第576回理事会 2012年7月24日</p> <p>議長：古川一夫（会長）</p> <p>議決可能理事数：全議案とも23名 出席理事数：18名</p> | <p>< 承認事項 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 全国大会「表彰式」の時間短縮と表彰の場の変更 [事業] プログラミングコンテスト：体制変更と運営業務の外部委託 [事業] ONDM2010国際会議終了報告書 [調査研究] <p>< 審議事項 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 企画政策委員会関係 [副会長] <ol style="list-style-type: none"> 2012年度第2回企画政策委員会議事録 各理事への対応依頼：中長期計画・会員増・活動改善指標 選挙制度の見直し：概要 [副会長] 政策提言WG報告：経産省ヒアリング・マスタープランほか [副会長] <p>< 報告事項 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 月次損益管理（2012年6月） [財務] JST研究開発戦略センターとの連携協力 [総務] 第165回会誌編集委員会議事録 / モニタ評価・特集予定ほか [会誌] 会誌広告状況 [会誌] ジャーナル・JIP特集 / トランザクション発行状況 [論文誌] ジャーナル・JIP特集号：企画依頼 [論文誌] デジタルプラクティス特集一覧 / アクセス数 [技術応用] 情報規格調査会の近況報告 [標準化] | <p>承認 承認 承認</p> <p>確認 依頼 概要説明 確認</p> <p>確認 確認 確認 確認 確認 依頼 確認 確認</p> |

各種委員会

委員長・主査， 副委員長・財務委員， 幹事・副査， 担当理事（担務）、*オブザーバ， アドバイザ委員
委員は6月以降の構成を掲載（以下、同）

1. 法人運営

1.1 企画政策委員会

/ 寺中勝美、 / 西尾章治郎、 黒橋禎夫、 松井 充、 折原良平、 鳥居 悟、 中野美由紀、 山室雅司、 吉野松樹、 渡辺 尚

[6月20日、7月11日、8月29日、9月14日、10月17日、11月21日、12月12日、'13年1月23日、2月26日、3月19日]

アドバイザーボード対応 / 選挙制度の見直し / 学生無料トライアル会員制度の導入 / 会員サービスに関する検討対応

1.1.1 学会システムWG

/ 鳥居 悟、 赤池洋俊、 片岡利枝子、 木原民雄、 中田登志之、 中津佳彦、 野崎正治、 平林浩一

[7月18日、8月21日、9月18日、10月15日、11月6日、11月20日、12月11日、'13年1月8日、1月22日、2月12日、2月26日、3月12日]

学会管理システムに関する検討対応

1.2 政策提言委員会（11月までは政策提言WG）

/ 西尾章治郎、 / 黒橋禎夫、 / 松井 充、 東野輝夫、 池内克史、 大沢英一、 関口智嗣、 谷口倫一郎、 近山 隆、 中野美由紀、 山室雅司、 吉野松樹、 渡辺 尚、 清木 康

[4月11日、5月25日、6月21日、7月24日、8月29日、10月16日、12月21日]

学術会議マスタープラン対応 / 省庁ヒアリング / パブコメ対応 / 学会夢ロードマップ / 若手研究者の会 ほか

1.2.1 若手研究者の会（幹事会）

/ 黒橋禎夫、 野田夏子、 森嶋厚行、 近藤正章、 重野 寛、 越前 功、 大内一成、 関嶋政和、 高岡詠子、 後藤 真、 *西尾章治郎、 *池内克史、 *大沢英一、 渡辺 尚

['13年2月26日（全体会）、3月29日（幹事会）]

学会活動活性化に向けた若手からの意見 / 各研究分野のホットトピック / 大型プロジェクト等の状況説明 ほか

1.3 総務財務運営委員会

/ 寺中勝美、 山室雅司、 吉野松樹、 折原良平、 鳥居 悟

[4月18日、5月22日、6月20日、7月11日、8月29日、9月14日、10月17日、11月21日、12月12日、'13年1月23日、2月26日、3月19日]

定時総会関連事項 / 事業別損益管理 / その他運営諸課題の検討対応

1.3.1 本部・規格連絡会

/ 寺中勝美、 / 大蒔和仁、 鳥居 悟、 折原良平、（幹事）山室雅司、 吉野松樹、（幹事）伊藤 智、 榎本義彦、 落合真一、 加治佐俊一、 櫻井義人、 高橋克巳、 平山浩司、 福田昭一

[7月11日、10月17日、'13年1月23日] 本部・規格調査会間の連絡

1.4 電子化委員会（学会システムWGの設置により休眠）

1.4.1 セキュリティ委員会

村山優子、 吉野松樹、 折原良平、 大谷和子、 岡本栄司、 菊池浩明、 佐々木良一、 寺田真敏、 鳥居 悟、 丸山 宏

[電子メールベース] 情報セキュリティに関する諸対応

1.5 学生会員育成委員会

益田隆司、 小橋喜嗣、 吉野松樹、 折原良平、 寺中勝美、 山室雅司、 鳥居 悟

[11月12日、その他電子メールベース] 研究会・支部等への学生会員勧誘の協力依頼 / 正会員への移行状況の把握ほか

1.6 支部長会議

/ 古川一夫、 寺中勝美、 西尾章治郎、 山室雅司、 吉野松樹、 折原良平、 鳥居 悟

各支部長：高井昌彰（北海道）、小林広明（東北）、坂部俊樹（東海）、荒木睦大（北陸）、黒橋禎夫（関西）、三池秀敏（中国）、最所圭三（四国）、荒木啓二郎（九州）

[10月5日、12月21日（役員検討会）] 本部-支部の意見交換

1.7 アドバイザリーボード

根本武彦、島田俊夫、田口 潤、辻村清行、仲田雄作、永岡慶三、本山和夫

[10月16日] 第三者的な見地からの情報処理学会の運営に関する助言

2. 調査研究活動

2.1 調査研究運営委員会

/ 西尾章治郎、 / 池内克史、 / 大沢英一、 / 渡辺 尚、片寄晴弘、菊池浩明、木俣 豊、清木 康、中村 宏、茂木 強

| 開催年月日 | 主な議事事項 | 会議結果 |
|-------------|--|---|
| 2012年4月11日 | 1. 中長期計画における国際化対応 2. 政策提言 / 国際連携 / 国・学会会議との連携 | 意見交換 / 各領域へ意見収集依頼 意見交換 / 各領域へ意見収集依頼 |
| 2012年5月15日 | 1. 中長期計画における国際化対応 2. 政策提言 / 国際連携 / 国・学会会議との連携 3. CEDEC連携協力ほか | 各領域からの報告確認 各領域からの報告確認 確認 |
| 2012年7月13日 | 1. 委員構成確認 2. 役員選挙の改定 3. 監事付帯意見への対応 4. 研究会共通費の賦課・シンポジウム事務諸費など | 確認 調査研究関連箇所の変更概要確認 各領域・研究会に収集依頼 承認 |
| 2012年10月10日 | 1. 2013年度研究会登録費算定方法 2. 監事意見対応：グローバル化・時代の変化への対応 3. 調査研究分野の財務的課題 4. 理事候補者の推薦 5. 研究会の継続・統合 6. 学会ロードマップ / 学会会議マスタープランへの対応 | 承認 理事会報告 各領域意見収集 12月役員検討会へ提出 確認 各領域・研究会で意見収集 確認 推薦 確認・承認 理事会報告 確認 各領域・研究会へ周知 |
| 2013年3月12日 | 1. 領域財務委員について 2. 特選論文表彰について 3. 研究積立資産の設置について 4. 若手研究者の会の発足について 5. 学会ロードマップ / 学会会議マスタープランへの対応 6. 中長期計画 / 会員増の進捗 | 審議 理事会 審議 確認 確認 確認・意見交換 政策提言委員会へ報告 確認 |

2.2 コンピュータサイエンス領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

清木 康、中村 宏、大沢英一、宇野毅明、岸 知二、河野健二、小林 聡、佐藤寿倫、須田礼仁、中本幸一、増原英彦、村岡道明、山名早人

| | | |
|------------|---|---|
| 2012年7月17日 | 領域共通-1. 2012年度山下記念研究賞 領域共通-2. 監事意見への対応：グローバル化・新規分野など 領域共通-3. 研究会共通費の賦課・シンポジウム事務諸費など 領域共通-4. 研究会への依頼事項：英文Webサイトの整備など 領域共通-5. 国際会議の開催手順 | 選定 理事会提案 意見交換 各研究会からの意見収集 確認 確認 検討 |
| 2012年9月27日 | 領域共通-1. 研究会の継続・統合 領域共通-2. 2013年度研究会登録費算定方法 領域共通-3. 研究会演題登録システムの進捗 領域共通-4. 学会ロードマップ / 学会会議マスタープランへの対応 | 承認 調査研究運営委員会へ提案 / 報告 確認 確認 周知・提案依頼 |
| 2013年2月7日 | 領域共通-1. 2012年度活動状況 / 2013年度計画 領域共通-2. 領域委員長・財務委員の改選 領域共通-3. 研究積立資産の設置について 領域共通-4. 学会ロードマップへの対応 領域共通-5. 中長期計画 / 会員増の進捗 領域共通-6. 若手研究者の会の発足について | 確認 確認・承認 確認 確認・意見交換 政策提言委員会へ報告 確認 確認 |

2.3 情報環境領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

/ 渡辺 尚、菊池浩明、石川憲洋、今村 誠、柿本正憲、勝本道哲、岸場清悟、小林 稔、酒澤茂之、椎尾一郎、関 洋平、竹下 敦、刀川 眞、塚本昌彦、西本一志、松浦幹太、村山優子、屋代智之、山之上卓

[7月23日、9月18日、'13年2月14日] コンピュータサイエンス領域委員会の領域共通事項に同じ。

2.4 メディア知能情報領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

/ 池内克史、片寄晴弘、伊藤彰則、角田博保、倉本 到、栗原 聡、渋谷哲朗、関野 樹、竹村治雄、田中哲朗、徳永健伸、平井重行、八木康史、山下博之

[7月31日、9月24日、'13年2月14日] コンピュータサイエンス領域委員会の領域共通事項に同じ。

3. 人材育成活動

3.1 高度IT人材資格検討WG 高度IT人材資格制度設計WGは6月終了、個人認証試行準備WGおよび企業認定制度設計WGは掲載略

旭 寛治、赤津雅晴、位野木万里、落谷 亮、折原良平、寛 捷彦、掛下哲郎、串田高幸、芝田 晃、鳥居 悟、中野美由紀、西 直樹、平田圭二、松井 充、丸山 宏、茂木 強、山室雅司、吉野松樹

[4月9日、5月25日、6月14日、7月11日、8月21日、'13年1月10日、2月6日、3月11日] 高度IT人材資格制度の検討

3.2 情報処理教育委員会（教育賞選定委員会を兼ねる） 傘下の委員会は掲載略

寛 捷彦、角田博保、佐渡一広、平田圭二、位野木万里、阿草清滋、牛島和夫、大岩 元、掛下哲郎、金寺 登、神沼靖子、川合 慧、河村一樹、久野 靖、黒川恒雄、児玉公信、駒谷昇一、佐々木良一、清水尚彦、武井恵雄、辰己丈夫、富樫 敦、都倉信樹、富田悦次、中森真理雄、中山泰一、西田知博、疋田輝雄、福田 晃、本位田真一、松永賢次、望月徹英、山本昌弘、弓場敏嗣、吉澤康文、吉村 晋

[4月13日、6月12日、7月26日、9月3日、10月22日、11月16日、12月18日、'13年1月22日、2月26日]

JABEE対応 / 会誌「べた語義」掲載 / J07後継カリキュラム / 傘下の小委員会報告ほか

4. 事業活動

4.1 事業運営委員会

/ 西尾章治郎、 / 橋田浩一、砂原秀樹、赤津雅晴

[電子メールベース] 全国大会、FIT、その他イベントの運営推進

4.2 第75回（2013年春）全国大会組織委員会 プログラム委員会、現地実行委員会は掲載略

/ 西尾章治郎、 / 橋田浩一、砂原秀樹、渡辺 尚、石田 亨

[7月12日、ほか電子メールベース] 全国大会の運営・開催推進

4.3 FIT運営委員会 情報科学技術推進委員会・幹事会・実行委員会・プログラム委員会は掲載略

大田友一、 / 寺中勝美、西尾章治郎、砂原秀樹、村瀬 洋、荒川賢一、武川直樹、萩田紀博、橋田浩一、籠嶋岳彦、佐藤真一、宮野博義、石渡要介、大塚真吾

[11月2日、ほか電子メールベース] FITの運営・開催推進

4.4 プログラミング・シンポジウム幹事会 運営委員会は掲載略

並木美太郎、横山大作、三好健文、中山心太、笹田耕一、疋田敏朗、長 慎也、松崎公紀

[6月6日、8月24日、10月10日、12月12日、'13年2月22日] 夏のプロシン / 若手の会 / 冬のプロシンの開催推進

4.5 コンピュータ将棋『あから』強化推進委員会

松原 仁、橋田浩一、砂原秀樹、鶴岡慶雅、保木邦仁、吉野松樹、金子知適、田中哲朗、山下 宏、横山大作、伊藤毅志、岸本章宏、橋本 剛、瀧澤武信、小谷善行、飯田弘之、近山 隆、柴山悦哉、関口智嗣、中島 浩、棚瀬 寧、柿木義一、*湖東俊彦

[電子メールベース] コンピュータ将棋とプロ棋士の対戦推進

4.7 プログラミングコンテスト委員会

近山 隆、*竹内郁雄、鷺崎弘宜、田中秀樹、小林隆志、荒川 豊、松原 仁、高田真吾、木戸冬子、吉野松樹、折原良平、山室雅司、鳥居 悟、橋田浩一、砂原秀樹、下間芳樹

[4月18日、5月17日、6月18日、7月12日、8月10日、9月13日、10月4日、11月5日、12月19日、'13年1月16日]

プログラミングコンテストの開催推進

4.8 技術応用運営委員会

村上篤道、寺中勝美、中野美由紀、赤津雅晴、折原良平、鳥居 悟、松井 充、橋田浩一、丸山 宏、平田圭二、旭 寛治、茂木 強、田中秀樹

[6月19日、11月7日、'13年1月8日] 技術応用活動の運営推進

4.9 ITプロフェッショナル委員会（高度IT資格関連WGの活動により休眠）

4.10 セミナー推進委員会

/ 中野美由紀、 / 赤津雅晴、橋田浩一、田中秀樹、平手勇宇、鬼塚 真、杉田由美子

[7月25日、8月27日、11月6日、'13年1月8日、2月7日] 連続セミナー・短期セミナーの開催推進

4.11 ITフォーラム推進委員会 ソフトウェアジャパン関連委員会は掲載略

/ 中野美由紀、 / 赤津雅晴、諏訪良武、菟川友宏、位野木万里、掛下哲郎、宮崎義文、茂木 強、黒橋禎夫

[7月5日、8月7日、9月11日、10月9日、12月4日、'13年1月8日] ITフォーラム・ソフトウェアジャパンの運営推進

5. 会誌

5.1 会誌編集委員会

中島秀之、河川信夫、木下哲男、伊藤毅志、奥乃 博、小野寺民也、柏野邦夫、加藤丈和、佐藤文明、高岡詠子、谷 幹也、田村 大、塚本昌彦、徳田雄洋、松崎公紀、宮崎邦彦、村上知子、吉岡信和、吉濱佐知子、秋岡明香、高瀬 亮、真鍋宏幸、高杉秀樹、中村大賀、猪俣敦夫

[4月11日、5月10日、6月7日、7月5日、9月4日、10月4日、11月1日、12月6日、'13年1月8日、2月6日、3月14日]

全回共通：会誌の編集刊行

6. 機関誌 / 出版活動

6.1 学会論文誌運営委員会

/ 西尾章治郎、池内克史、大沢英一、岡部寿男、串田高幸、渡辺 尚

[電子メールベース] 論文誌全体に関する諸課題の対応

6.2 JIP編集委員会（幹事会）

横田治夫、 / 串田高幸、 / 岡部寿男、*Monica CARLY、*Robert DELANEY、*Michael ENG、*Sylvain KAMDEM、*Mamadou KONE、*Adam KOZYNIAK、*Raymond WAN [海外編集委員]： Won-Gyu LEE（韓国）、Seiji ISOTANI（ブラジル）、Kunsoo PARK（韓国）、Hee-Kap AHN（韓国）、Xiaofang ZHOU（オーストラリア）、Jeffrey Xu YU（香港）、Winston SEAH（ニュージーランド）、Takashi MIYAKI（ドイツ）、Rémi COULOM（フランス）、Calton PU（アメリカ）

[4月2日、5月12日、6月1日、7月2日、9月10日、10月10日、11月2日、12月7日、'13年1月11日、2月1日、3月1日]

全回共通：JIPの編集刊行

6.3 論文誌ジャーナル編集委員会（幹事会）

/ 串田高幸、 / 岡部寿男、中村大賀、戸川 望、井口 寧、石原 進、清原良三、鈴木幸太郎、吉田 稔、福田直樹、藤井秀樹、坂東宏和、由井園隆也、吉高淳夫

[4月2日、5月12日、6月1日、7月2日、9月10日、10月10日、11月2日、12月7日、'13年1月11日、2月1日、3月1日]

全回共通：論文誌ジャーナルの編集刊行

6.3 トランザクション編集会議

/ 岡部寿男、石川佳治、酒井哲也、城 和貴、関嶋政和、高橋 修、富山宏之、中村 宏、増原英彦、八木康史、山名早人

[10月29日ほか、電子メールベース] トランザクションの編集刊行に関する諸課題の対応

6.4 デジタルプラクティス編集委員会

平田圭二、中野美由紀、赤津雅晴、青山幹雄、上原哲太郎、大蒔和仁、河川信夫、黒橋禎夫、桑名栄二、坂井修一、諏訪良武、武田浩一、谷口倫一郎、近山 隆、中田登志之、平山雅之、丸山 宏、茂木 強、守安 隆、吉野松樹、*喜連川優

[4月22日、5月28日、6月25日、7月23日、9月19日、10月25日、11月28日、12月25日、'13年1月31日、2月28日、3月25日]

全回共通：デジタルプラクティスの編集刊行

6.5 デジタルコンテンツ事業検討委員会

/ 西尾章治郎、折原良平、安達 淳、今村 誠、大沢英一、岡部寿男、河川信夫、砂原秀樹、塚本昌彦、中野美由紀、平田圭二、山室雅司

[4月13日、9月20日、12月12日、'13年3月12日] デジタルコンテンツ事業の推進

6.6 出版委員会

6.6.1 教科書委員会

阪田史郎、 河口信夫、 木下哲男、伊藤 潔、井戸上彰、大河内正明、駒谷昇一、坂下善彦、曾根原登、本位田真一

[5月30日、12月26日、3月27日] 教科書シリーズの刊行に関する検討

6.7 歴史特別委員会（傘下の小委員会は掲載略）

発田 弘、 松永俊雄、 河口信夫、 木下哲男、旭 寛治、宇田 理、浦城恒雄、橋爪宏達、弘末清悟、前島正裕、山田昭彦

[4月18日、6月13日、9月5日、10月22日、'13年1月21日]

コンピュータに関する歴史の公開推進、情報処理技術遺産等の認定ほか

6.8 著作権委員会

/ 河口信夫、 / 木下哲男、天野真家、池内克史、大沢英一、大谷和子、岡部寿男、串田高幸、杉本重雄、中野美由紀、長谷川亨、平田圭二、吉野松樹、渡辺 尚

[電子メールベース] 知的財産権専門委員推薦、その他著作権に関する対応

7. 標準化活動

7.1 情報規格調査会（規格役員会）

/ 大蒔和仁、 伊藤 智、落合真一、楠 正憲（7月24日加治佐俊一、3月22日成井良久に交替）、櫻井義人、高橋克巳、鳥居 悟、谷津行穂（7月24日榎本義彦に交替、3月22日規格役員退任）、平山浩司、福田昭一

[4月9日、5月14日、5月21日、6月11日、7月9日、9月10日、10月15日、11月19日、12月10日、'13年1月21日、2月18日、3月11日
規格賛助員の入退会等 / 委員変更 / 国際会議派遣・招致 / 月次決算 / JTC1総会対応 / 標準化関連受託対応ほか

8. 国際活動

8.1 IFIP委員会

齊藤忠夫（IFIP日本代表）、 / 西尾章治郎、 / 渡辺 尚、 / 大沢英一、 池内克史、小林直樹、萩谷昌己、大岩 元、中野 冠、亀田壽夫、内木哲也、小向太郎、金川信康、村山優子、山口高平、北村喜文、星野准一

[11月9日] IFIP年次総会報告 / 各TCの活動報告ほか。

9. 上記以外の委員会および委員は次サイトを参照

<http://www.ipsj.or.jp/annai/committee/meibo/2012/2012meibo.html>

付2．研究会および研究発表・学術講習会等一覧

[研究会等の詳細]

| 研究会等の名称 (() 内：英略称、*：研究グループ) | 主査名 (運営委員数) | 登録者数 |
|---------------------------------|---------------|------|
| [コンピュータサイエンス領域] | | |
| データベースシステム (DBS) | 山名早人 (47) | 477 |
| ソフトウェア工学 (SE) | 岸 知二 (43) | 536 |
| 計算機アーキテクチャ (ARC) | 佐藤寿倫 (33) | 401 |
| システムソフトウェアとオペレーティング・システム (OS) | 河野健二 (32) | 330 |
| システムLSI設計技術 (SLDM) | 村岡道明 (33) | 277 |
| ハイパフォーマンスコンピューティング (HPC) | 須田礼仁 (37) | 556 |
| プログラミング (PRO) | 増原英彦 (23) | 349 |
| アルゴリズム (AL) | 宇野毅明 (23) | 224 |
| 数理モデル化と問題解決 (MPS) | 小林 聡 (31) | 349 |
| 組込みシステム (EMB) | 中本幸一 (31) | 287 |
| [情報環境領域] | | |
| マルチメディア通信と分散処理 (DPS) | 勝本道哲 (43) | 372 |
| ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI) | 西本一志 (37) | 571 |
| グラフィクスとCAD (CG) | 柿本正憲 (30) | 281 |
| 情報システムと社会環境 (IS) | 刀川 眞 (23) | 193 |
| 情報基礎とアクセス技術 (IFAT) | 関 洋平 (24) | 176 |
| オーディオビジュアル複合情報処理 (AVM) | 酒澤茂之 (14) | 79 |
| グループウェアとネットワークサービス (GN) | 小林 稔 (32) | 263 |
| デジタルドキュメント (DD) | 今村 誠 (18) | 126 |
| モバイルコンピューティングとユビキタス通信 (MBL) | 竹下 敦 (39) | 337 |
| コンピュータセキュリティ (CSEC) | 松浦幹太 (41) | 470 |
| 高度交通システム (ITS) | 屋代智之 (17) | 169 |
| システム評価 (EVA) | 岸場清悟 (17) | 73 |
| ユビキタスコンピューティング (UBI) | 椎尾一郎 (25) | 266 |
| インターネットと運用技術 (IOT) | 山之上卓 (39) | 371 |
| セキュリティ心理学とトラスト (SPT) | 村山優子 (21) | 84 |
| コンシューマ・デバイス&システム (CDS) | 石川憲洋 (32) | 129 |
| デジタルコンテンツクリエイション (DCC) | 塚本昌彦 (21) | 78 |
| [メディア知能情報領域] | | |
| 自然言語処理 (NL) | 徳永健伸 (20) | 480 |
| 知能システム (ICS) | 栗原 聡 (11) | 226 |
| コンピュータビジョンとイメージメディア (CVIM) | 八木康史 (57) | 568 |
| コンピュータと教育 (CE) | 角田博保 (45) | 524 |
| 人文科学とコンピュータ (CH) | 関野 樹 (28) | 233 |
| 音楽情報科学 (MUS) | 平井重行 (31) | 367 |
| 音声言語情報処理 (SLP) | 伊藤彰則 (24) | 241 |
| 電子化知的財産・社会基盤 (EIP) | 山下博之 (16) | 122 |
| ゲーム情報学 (GI) | 田中哲朗 (25) | 233 |
| エンタテインメントコンピューティング (EC) | 倉本 到 (27) | 180 |
| バイオ情報学 (BIO) | 渋谷哲朗 (15) | 134 |
| 教育学習支援情報システム (CLE) | 竹村治雄 (16) | 147 |
| *ネットワーク生態学 (NE) | 林 幸雄 (--) | --- |
| *会員の力を社会につなげる (SSR) | 筧 捷彦 (--) | --- |

1. 研究発表会（調査研究活動分）

1.1 コンピュータサイエンス領域

1.1.1 データベースシステム研究発表会

| 回次 | 開催年月 | 場所 | 発表件数 | 参加者数 | 共催団体、その他備考 |
|-------|-----------------|------------|------|------|------------|
| 第154回 | 2012年8月1日～2日 | 名古屋大学 | 14 | 44 | |
| 第155回 | 2012年11月19日 | 秋葉原ダイビル | 20 | 61 | |
| 第156回 | 2012年12月12日～13日 | キャンパスプラザ京都 | 25 | 74 | 電子情報通信学会 |

1.1.2 ソフトウェア工学研究発表会

| | | | | | |
|-------|----------------|--------|----|----|----------|
| 第176回 | 2012年5月21日～22日 | 早稲田大学 | 13 | 41 | |
| 第177回 | 2012年7月19日～20日 | 大阪大学 | 11 | 29 | |
| 第178回 | 2012年11月1日～2日 | 広島市立大学 | 28 | 60 | 電子情報通信学会 |
| 第179回 | 2013年3月11日～12日 | 化学会館 | 37 | 77 | |

1.1.3 計算機アーキテクチャ研究発表会

| | | | | | |
|-------|-----------------|---------------|----|-----|----------|
| 第187回 | 2012年5月7日～8日 | サンマリーナホテル | 20 | 30 | |
| 第188回 | 2012年8月1日～2日 | とりぎん文化会館 | 27 | 100 | |
| 第189回 | 2012年12月13日～14日 | 北海道大学 | 37 | 43 | |
| 第190回 | 2013年1月31日～2月1日 | 早稲田大学 | 15 | 90 | 電子情報通信学会 |
| 第191回 | 2013年3月26日～27日 | 和歌山県立情報交流センター | 11 | 25 | |

1.1.4 システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究発表会

| | | | | | |
|-------|-----------------|---------------|----|----|--|
| 第121回 | 2012年5月7日～8日 | サンマリーナホテル | 20 | 26 | |
| 第122回 | 2012年8月1日～2日 | とりぎん文化会館 | 21 | 62 | |
| 第123回 | 2012年12月5日 | 筑波大学東京キャンパス | 12 | 36 | |
| 第124回 | 2013年2月28日～3月1日 | 岡山コンベンションセンター | 14 | 41 | |

1.1.5 システムLSI設計技術研究発表会

| | | | | | |
|-------|-----------------|-----------|----|-----|----------|
| 第156回 | 2012年5月30日～31日 | 北九州国際会議場 | 10 | 56 | 電子情報通信学会 |
| 第157回 | 2012年10月18日～19日 | ホテルルイズ盛岡 | 19 | 75 | 電子情報通信学会 |
| 第158回 | 2012年11月26日～28日 | 九州大学 | 48 | 130 | 電子情報通信学会 |
| 第159回 | 2013年1月16日～17日 | 慶應義塾大学 | 29 | 83 | 電子情報通信学会 |
| 第160回 | 2013年3月13日～14日 | 対馬市交流センター | 48 | 38 | 電子情報通信学会 |

1.1.6 ハイパフォーマンスコンピューティング研究発表会

| | | | | | |
|-------|-----------------|-------------|----|-----|--|
| 第134回 | 2012年6月1日 | 電気通信大学 | 11 | 69 | |
| 第135回 | 2012年8月1日～3日 | とりぎん文化会館 | 46 | 160 | |
| 第136回 | 2012年10月3日～4日 | 沖縄県産業振興センター | 28 | 47 | |
| 第137回 | 2012年12月13日～14日 | 北海道大学 | 37 | 87 | |
| 第138回 | 2013年2月21日～22日 | 芦原温泉清風荘 | 31 | 76 | |

1.1.7 プログラミング研究発表会

| | | | | | |
|------|-----------------|-------------|----|----|--|
| 第89回 | 2012年6月21日～22日 | 小樽市民センター | 6 | 17 | |
| 第90回 | 2012年8月3日 | とりぎん文化会館 | 6 | 37 | |
| 第91回 | 2012年10月30日～31日 | 日本丸メモリアルパーク | 6 | 24 | |
| 第92回 | 2013年1月15日～16日 | AiAiひろば | 13 | 66 | |
| 第93回 | 2013年2月28日～3月1日 | 国立情報学研究所 | 10 | 23 | |

1.1.8 アルゴリズム研究発表会

| | | | | | |
|-------|------------|---------|----|----|----------|
| 第140回 | 2012年5月14日 | 愛媛大学 | 9 | 12 | 電子情報通信学会 |
| 第141回 | 2012年10月4日 | 北海道大学 | 6 | 20 | |
| 第142回 | 2012年11月2日 | 岩手大学 | 10 | 19 | |
| 第143回 | 2013年3月1日 | 飯坂温泉伊勢谷 | 15 | 32 | |

1.1.9 数理モデル化と問題解決研究発表会

| | | | | | |
|------|----------------|------------|----|----|--|
| 第88回 | 2012年5月17日 | 名古屋大学 | 21 | 38 | |
| 第89回 | 2012年7月16日 | モンテカルロリゾート | 12 | 15 | |
| 第90回 | 2012年9月19日～20日 | 小樽経済センター | 29 | 35 | |
| 第91回 | 2012年12月6日～7日 | 京都大学 | 41 | 69 | |
| 第92回 | 2013年2月27日～28日 | 武雄市文化会館 | 33 | 56 | |

1.1.10 組込みシステム研究発表会

| | | | | | |
|------|----------------|--------------|----|----|----------|
| 第25回 | 2012年5月21日～22日 | 早稲田大学 | 13 | 29 | |
| 第26回 | 2012年9月10日 | 九州大学 | 6 | 11 | |
| 第27回 | 2012年12月5日 | 筑波大学 東京キャンパス | 12 | 20 | |
| 第28回 | 2013年3月13日～14日 | 対馬市交流センター | 48 | 40 | 電子情報通信学会 |

1.2 情報環境領域

1.2.1 マルチメディア通信と分散処理研究発表会

| | | | | | |
|-------|-----------------|------------|----|----|----------|
| 第151回 | 2012年5月21日～22日 | 沖縄青年会館 | 30 | 10 | 電子情報通信学会 |
| 第152回 | 2012年9月13日～14日 | 尾道公会堂別館 | 33 | 47 | |
| 第153回 | 2012年11月15日～16日 | 彦根キャッスルホテル | 12 | 24 | |
| 第154回 | 2013年3月13日～14日 | 東京電機大学 | 58 | 43 | |

1.2.2 ヒューマンコンピュータインタラクション研究発表会

| | | | | | |
|-------|----------------|--------------|----|----|--|
| 第148回 | 2012年6月1日～2日 | 沖縄産業支援センター | 24 | 44 | |
| 第149回 | 2012年7月19日～20日 | 源平荘 | 15 | 39 | |
| 第150回 | 2012年11月1日～2日 | お茶の水女子大学 | 20 | 50 | |
| 第151回 | 2013年2月1日～2日 | ニューウェルシティ湯河原 | 22 | 71 | |
| 第152回 | 2013年3月13日～14日 | 明治大学 | 30 | 69 | |

1.2.3 グラフィクスとCAD研究発表会

| | | | | | |
|-------|----------------|----------|----|----|-----------|
| 第147回 | 2012年6月22日 | お茶の水女子大学 | 8 | 65 | |
| 第148回 | 2012年8月29日 | 九州大学 | 10 | 21 | |
| 第149回 | 2012年12月3日～4日 | 横浜国立大学 | 20 | 53 | |
| 第150回 | 2013年2月18日～19日 | 東京大学 | 23 | 61 | CG-ARTS協会 |

1.2.4 情報システムと社会環境研究発表会

| | | | | | |
|-------|----------------|---------------|----|----|--|
| 第120回 | 2012年6月4日 | 青山学院大学 | 7 | 17 | |
| 第121回 | 2012年9月10日～11日 | 甲南大学 | 12 | 33 | |
| 第122回 | 2012年12月3日 | NTT武蔵野研究開発センタ | 5 | 18 | |
| 第123回 | 2013年3月14日～15日 | 東京工科大学 | 9 | 30 | |

1.2.5 情報基礎とアクセス技術研究発表会

| | | | | | |
|-------|-----------------|-------------|----|----|----------------|
| 第107回 | 2012年8月1日～2日 | 名古屋大学 | 14 | 27 | |
| 第108回 | 2012年9月25日 | 筑波大学東京キャンパス | 5 | 17 | デジタル図書館ワークショップ |
| 第109回 | 2013年1月11日～12日 | JA-AZMホール | 6 | 12 | |
| 第110回 | 2013年2月28日～3月1日 | 東洋大学 | 11 | 28 | |

1.2.6 オーディオビジュアル複合情報処理研究発表会

| | | | | | |
|------|----------------|------------|----|----|-------------------|
| 第77回 | 2012年7月19日～20日 | 筑波大学 | 13 | 4 | 映像メディア学会/電子情報通信学会 |
| 第78回 | 2012年9月20日～21日 | 鳥取県関西本部 | 15 | 6 | 電子情報通信学会 |
| 第79回 | 2012年12月6日 | 福井市地域交流プラザ | 32 | 11 | 電子情報通信学会 |
| 第80回 | 2013年2月22日 | 津田塾大学 | 8 | 19 | |

1.2.7 グループウェアとネットワークサービス研究発表会

| | | | | | |
|------|----------------|---------------|----|----|----------|
| 第84回 | 2012年5月17日～18日 | 千葉工業大学 | 22 | 16 | 電子情報通信学会 |
| 第85回 | 2012年9月13日～14日 | 尾道公会堂別館 | 33 | 37 | |
| 第86回 | 2013年1月16日～17日 | 名城大学 | 41 | 36 | |
| 第87回 | 2013年3月18日～19日 | 北陸先端科学技術大学院大学 | 18 | 47 | |

1.2.8 デジタルドキュメント研究発表会

| | | | | | |
|------|-----------------|---------------|----|----|--|
| 第86回 | 2012年7月19日～20日 | ホテル新富湯 | 4 | 10 | |
| 第87回 | 2012年12月22日 | 東京大学 | 3 | 10 | |
| 第88回 | 2013年1月18日 | NTT武蔵野研究開発センタ | 9 | 22 | |
| 第89回 | 2013年2月28日～3月1日 | 東洋大学 | 11 | 23 | |

1.2.9 モバイルコンピューティングとユビキタス通信研究発表会

| | | | | | |
|------|-----------------|--------|----|----|----------|
| 第62回 | 2012年5月21日～22日 | 沖縄青年会館 | 30 | 38 | 電子情報通信学会 |
| 第63回 | 2012年8月30日～31日 | 東京理科大学 | 22 | 38 | |
| 第64回 | 2012年11月15日～16日 | 北海道大学 | 26 | 16 | |
| 第65回 | 2013年3月14日～15日 | 東京大学 | 55 | 36 | 電子情報通信学会 |

1.2.10 コンピュータセキュリティ研究発表会

| | | | | | |
|------|----------------|----------|----|----|------------------|
| 第57回 | 2012年5月11日 | タワーホール船堀 | 34 | 25 | 電子情報通信学会 |
| 第58回 | 2012年7月19日～20日 | 弘前大学 | 48 | 30 | 電子情報通信学会 |
| 第59回 | 2012年12月14日 | 名古屋大学 | 9 | 41 | 日本セキュリティマネジメント学会 |
| 第60回 | 2013年3月13日～14日 | 東京電機大学 | 58 | 82 | |

1.2.11 高度交通システム研究発表会

| | | | | | |
|------|-----------------|---------------|----|----|----------|
| 第49回 | 2012年6月15日 | 首都大学東京 | 5 | 14 | |
| 第50回 | 2012年9月10日 | 奈良先端科学技術大学院大学 | 13 | 25 | 電子情報通信学会 |
| 第51回 | 2012年11月15日～16日 | 北海道大学 | 26 | 18 | |
| 第52回 | 2013年3月16日 | 日本科学未来館 | 3 | 12 | |

1.2.12 システム評価研究発表会

| | | | | | |
|------|------------|------------|----|----|--|
| 第38回 | 2012年8月2日 | とりぎん文化会館 | 2 | 6 | |
| 第39回 | 2012年12月2日 | テクノアークしまね | 13 | 4 | |
| 第40回 | 2013年3月22日 | 日立製作所横浜研究所 | 4 | 13 | |

1.2.13 ユビキタスコンピューティングシステム研究発表会

| | | | | | |
|------|----------------|----------|----|----|----------|
| 第34回 | 2012年5月17日～18日 | 豊橋技術科学大学 | 41 | 33 | 電子情報通信学会 |
| 第35回 | 2012年7月14日 | 東北大学 | 11 | 20 | |
| 第36回 | 2012年11月1日～2日 | お茶の水女子大学 | 20 | 42 | |
| 第37回 | 2013年3月14日～15日 | 東京大学 | 55 | 70 | 電子情報通信学会 |

1.2.14 インターネットと運用技術研究発表会

| | | | | | |
|------|----------------|-------------|----|----|----------|
| 第17回 | 2012年5月11日 | 秋田大学 | 34 | 37 | 電子情報通信学会 |
| 第18回 | 2012年6月28日 | 東京学芸大学 | 6 | 40 | |
| 第19回 | 2012年9月27日～28日 | テクノアークしまね | 13 | 46 | |
| 第20回 | 2013年3月14日～15日 | 東大寺総合文化センター | 45 | 67 | 電子情報通信学会 |

1.2.15 セキュリティ心理学とトラスト研究発表会

| | | | | | |
|-----|----------------|---------|----|----|----------|
| 第3回 | 2012年5月17日～18日 | 千葉工業大学 | 22 | 16 | 電子情報通信学会 |
| 第4回 | 2012年7月19日～20日 | 北海道工業大学 | 48 | 9 | 電子情報通信学会 |

1.2.16 コンシューマ・デバイス&システム研究発表会

| | | | | | |
|-----|-----------------|--------|----|----|--|
| 第4回 | 2012年5月11日 | 東北大学 | 21 | 44 | |
| 第5回 | 2012年10月17日～18日 | 愛知工業大学 | 27 | 31 | |
| 第6回 | 2013年1月16日～17日 | 名桜大学 | 41 | 33 | |

1.2.17 デジタルコンテンツクリエイション研究発表会

| | | | | | |
|-----|-----------------|--------|----|----|--|
| 第1回 | 2012年5月17日～18日 | 日本大学 | 17 | 35 | |
| 第2回 | 2012年10月17日～18日 | 愛知工業大学 | 27 | 33 | |
| 第3回 | 2013年1月21日～22日 | 多摩美術大学 | 14 | 33 | |

1.3 メディア知能情報領域

1.3.1 自然言語処理研究発表会

| | | | | | |
|-------|-----------------|-----------|----|----|--|
| 第206回 | 2012年5月10日～11日 | 東京工業大学 | 16 | 72 | |
| 第207回 | 2012年7月26日～27日 | 北海道大学 | 15 | 27 | |
| 第208回 | 2012年9月2日～3日 | 東北大学 | 9 | 43 | |
| 第209回 | 2012年11月22日～23日 | 京都大学 | 16 | 56 | |
| 第210回 | 2013年1月11日～12日 | JA-AZMホール | 6 | 22 | |

1.3.2 知能システム研究発表会

| | | | | | |
|-------|----------------|------------|----|----|--|
| 第168回 | 2012年9月19日 | 国立情報学研究所 | 5 | 15 | |
| 第169回 | 2012年10月24日 | ヤマハリゾートつま恋 | 4 | 18 | |
| 第170回 | 2013年3月10日～11日 | ルスツリゾートホテル | 13 | 11 | |
| 第171回 | 2013年3月18日 | 名古屋工業大学 | 25 | 43 | |

1.3.3 コンピュータビジョンとイメージメディア研究発表会

| | | | | | |
|-------|----------------|--------|----|-----|----------|
| 第182回 | 2012年5月23日～24日 | 中京大学 | 35 | 85 | |
| 第183回 | 2012年9月2日～3日 | 東京農工大学 | 28 | 55 | 電子情報通信学会 |
| 第184回 | 2012年12月3日～4日 | 横浜国立大学 | 20 | 62 | |
| 第185回 | 2013年1月23日～24日 | 京都大学 | 59 | 84 | 電子情報通信学会 |
| 第186回 | 2013年3月14日～15日 | 大阪大学 | 30 | 111 | |

1.3.4 コンピュータと教育研究発表会

| | | | | | |
|-------|-----------------|--------|----|----|----------|
| 第115回 | 2012年7月7日 | 独協大学 | 7 | 33 | |
| 第116回 | 2012年10月13日～14日 | 福島学院大学 | 18 | 32 | 電子情報通信学会 |
| 第117回 | 2012年12月8日～9日 | 熊本大学 | 15 | 28 | |
| 第118回 | 2013年2月8日～9日 | 東京農工大学 | 21 | 84 | |
| 第119回 | 2013年3月15日～16日 | 大阪大学 | 21 | 73 | |

1.3.5 人文科学とコンピュータ研究発表会

| | | | | | |
|------|-------------|----------|----|----|--|
| 第94回 | 2012年5月26日 | 同志社大学 | 9 | 32 | |
| 第95回 | 2012年8月4日 | 京都大学 | 10 | 36 | |
| 第96回 | 2012年10月12日 | 国文学研究資料館 | 10 | 16 | |
| 第97回 | 2013年1月25日 | 東京大学 | 12 | 36 | |

1.3.6 音楽情報科学研究発表会

| | | | | | |
|------|-----------------|------------|----|----|------------|
| 第95回 | 2012年6月2日～3日 | 東京大学 | 12 | 44 | 日本音響学会 |
| 第96回 | 2012年8月9日～11日 | 近江町交流プラザ | 21 | 75 | |
| 第97回 | 2012年12月21日～23日 | 東京電機大学 | 17 | 59 | 先端芸術音楽創作学会 |
| 第98回 | 2013年3月15日～16日 | 公立はこだて未来大学 | 27 | 48 | |

1.3.7 音声言語情報処理研究発表会

| | | | | | |
|------|-----------------|--------------|----|----|-------------------|
| 第91回 | 2012年5月10日～11日 | 東京工業大学 | 16 | 54 | |
| 第92回 | 2012年7月19日～21日 | 天童温泉 | 16 | 56 | 電子情報通信学会 / 日本音響学会 |
| 第93回 | 2012年10月26日 | NHK技術研究所 | 8 | 98 | |
| 第94回 | 2012年12月20日～21日 | 東京工業大学 | 30 | 54 | 電子情報通信学会 |
| 第95回 | 2013年2月1日～2日 | ニューウェルシティ湯河原 | 22 | 67 | |

1.3.8 電子化知的財産・社会基盤研究発表会

| | | | | | |
|------|----------------|----------|----|----|----------|
| 第56回 | 2012年5月16日 | 国立情報学研究所 | 11 | 21 | 電子情報通信学会 |
| 第57回 | 2012年9月13日～14日 | 尾道公会堂別館 | 33 | 39 | |
| 第58回 | 2012年11月16日 | 新潟大学 | 7 | 17 | |
| 第59回 | 2013年2月15日 | 神戸学院大学 | 5 | 15 | |

1.3.9 ゲーム情報学研究発表会

| | | | | | |
|------|------------|--------|---|----|--|
| 第28回 | 2012年7月13日 | 静岡県立大学 | 8 | 20 | |
| 第29回 | 2013年3月4日 | 東京工業大学 | 9 | 36 | |

1.3.10 エンタテインメントコンピューティング研究発表会

| | | | | | |
|------|-----------------|--------------|----|----|----------|
| 第24回 | 2012年5月14日～15日 | 東京工業大学 | 15 | 24 | 電子情報通信学会 |
| 第25回 | 2012年7月14日 | 東北大学 | 11 | 21 | |
| 第26回 | 2012年12月15日～16日 | ホテル リード・アズーロ | 6 | 13 | |
| 第27回 | 2013年3月15日～16日 | 公立はこだて未来大学 | 27 | 37 | |

1.3.11 バイオ情報学研究発表会

| | | | | | |
|------|----------------|----------|----|----|----------|
| 第29回 | 2012年6月28日～29日 | 沖縄科学技術大学 | 26 | 29 | 電子情報通信学会 |
| 第30回 | 2012年8月9日 | 九州工業大学 | 12 | 25 | |
| 第31回 | 2012年10月15日 | タワーホール船堀 | 4 | 7 | |
| 第32回 | 2012年12月6日～7日 | 京都大学 | 41 | 52 | |
| 第33回 | 2013年3月21日～22日 | 東北大学 | 9 | 20 | |

1.3.12 教育学習支援情報システム研究発表会

| | | | | | |
|-----|---------------|----------|----|----|--|
| 第7回 | 2012年5月26日 | 関西学院大学 | 9 | 37 | |
| 第8回 | 2012年11月2日～3日 | 九州大学 | 12 | 31 | |
| 第9回 | 2013年2月1日～2日 | 国立情報学研究所 | 14 | 46 | |

2. シンポジウム等

2.1 調査研究活動分

| 名称 | 開催年月 | 場所 | 演題数 | 参加数 |
|---|-------------------|----------------------|-----|-----|
| 先進的計算基盤システムシンポジウム SACSIS 2012 | 2012年5月16日～18日 | 神戸国際会議場 | 81 | 245 |
| マルチメディア、分散、協調とモバイル (DICOM02012) シンポジウム | 2012年7月4日～6日 | 山代温泉ホテル百万石 | 315 | 441 |
| iDB Workshop 2012 | 2012年7月31日～8月1日 | 名古屋大学 | 21 | 79 |
| 情報教育シンポジウム2012 (SSS2012) | 2012年8月20日～22日 | 三保園ホテル | 39 | 92 |
| ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2012 | 2012年8月27日～29日 | 東京電機大学 | 45 | 128 |
| DAシンポジウム2012 | 2012年8月29日～30日 | 下呂温泉 水明館 | 34 | 104 |
| エンタテインメントコンピューティングシンポジウム (EC2012) | 2012年9月28日～30日 | 神戸大学 | 83 | 232 |
| SOUPS2012論文読破会 | 2012年10月9日 | SECOM本社 | 13 | 24 |
| 組込みシステムシンポジウム2012 | 2012年10月16日～19日 | 国立オリンピック記念青少年センター | 41 | 157 |
| マルチメディア通信と分散処理ワークショップ (DPSWS2012) | 2012年10月17日～19日 | ホテル奥道後 | 46 | 81 |
| 情報科学シンポジウム | 2012年10月19日 | 愛知工業大学 | 6 | 53 |
| コンピュータセキュリティシンポジウム (CSS2012) | 2012年10月30日～11月1日 | くにびきメッセ (島根県立産業交流会館) | 135 | 378 |
| グループウェアとネットワークサービス研究会20周年記念シンポジウム&ワークショップ2012 | 2012年11月1日～2日 | 東京農工大学 | 6 | 72 |
| 第16回ゲームプログラミングワークショップ2012 | 2012年11月9日～11日 | 箱根セミナーハウス | 42 | 85 |
| 人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん2012」 | 2012年11月17日～18日 | 北海道大学 | 35 | 80 |
| 第5回Webとデータベースに関するフォーラム (WebDB Forum 2012) | 2012年11月20日～21日 | 秋葉原コンベンションホール | 86 | 312 |
| コンピュータシステム・シンポジウム (ComSys2012) | 2012年12月6日～7日 | 筑波大学 東京キャンパス | 28 | 76 |
| 情報アクセスシンポジウム2012 | 2012年12月7日 | 日本マイクロソフト 品川本社 | 11 | 58 |
| インターネットと運用技術シンポジウム (IOTS2012) | 2012年12月13日～14日 | 鹿児島大学 | 19 | 68 |
| 災害コミュニケーションシンポジウム | 2012年12月20日 | 東京理科大学 | 6 | 20 |
| 2013年ハイパフォーマンスコンピューティングと計算科学シンポジウム (HPCS2013) | 2013年1月15日～16日 | 東京工業大学 | 53 | 200 |
| ウインターワークショップ2013・イン・那須 | 2013年1月24日～25日 | ホテルラフォーレ那須 | 50 | 57 |
| インタラクティブ2013 | 2013年2月28日～3月2日 | 日本科学未来館 | 181 | 650 |
| 高度交通システム2013シンポジウム | 2013年3月15日 | 日本科学未来館 | 7 | 32 |

2.2 教育活動分

| | | | | |
|-----------------------------------|-------------|-------|---|----|
| 高校教科「情報」シンポジウム2012秋 - ジョーシン2012 - | 2012年10月27日 | 早稲田大学 | 6 | 86 |
|-----------------------------------|-------------|-------|---|----|

協力：早稲田大学

3. 事業活動

3.1 全国大会

| 名称 | 開催年月 | 場所 | 一般講演 | 招待講演 | 参加数 |
|----------|--------------|--------------|-------|------|-------|
| 第75回全国大会 | 2013年3月6日～8日 | 東北大学 川内キャンパス | 1,406 | 5 | 2,759 |

3.2 FIT (情報科学技術フォーラム)

| | | | | | |
|-------------------------|--------------|---------------|-----|---|-------|
| FIT2012 第11回情報科学技術フォーラム | 2012年9月4日～6日 | 法政大学 小金井キャンパス | 573 | 1 | 1,452 |
|-------------------------|--------------|---------------|-----|---|-------|

共催：電子情報通信学会 (情報・システムソサイエティ、ヒューマンコミュニケーショングループ)

3.3 連続セミナー2012：テーマ「ビッグデータとスマートな社会」

| 名称 | 開催年月 | 場所 | 演題数 | 本会場 参加数 | 遠隔会場 参加数 |
|-----------------------|-------------|-------------------------------|-----|------------|-------------|
| ビッグデータの解析と価値発見 | 2012年6月25日 | 各回とも 本会場：化学会館 遠隔会場：立命館大 | 5 | 120 | 52 |
| 個人データの保護と活用 | 2012年7月17日 | | 5 | 103 | 50 |
| 都市をマネジメントするビッグデータの可能性 | 2012年9月25日 | | 7 | 115 | 50 |
| ソーシャルメディアの大規模ネットワーク分析 | 2012年10月10日 | | 5 | 121 | 40 |
| ビッグデータに立ち向かう機械学習 | 2012年11月19日 | | 5 | 125 | 44 |
| ビッグデータ時代の自然言語処理 | 2012年12月6日 | | 5 | 126 | 33 |

協賛：電子情報技術産業協会、情報サービス産業協会、日本情報システム・ユーザ協会、電子情報通信学会

3.4 短期集中セミナー

| 名称 | 開催年月 | 場所 | 演題数 | 参加数 | 備考 |
|--|-------------|-----------|-----|-----|----|
| 高度なIT人材の育成を加速するために ～求められる人材像とその評価～ | 2012年10月11日 | 一橋講堂（NII） | 5 | 41 | 1 |
| Exciting Coding ～ ITスペシャリストが語るシステム開発の面白さ～ | 2012年11月14日 | 楽天タワー | 4 | 101 | 2 |

1) 協賛：情報サービス産業協会、日本情報システム・ユーザ協会、電子情報技術産業協会、電子情報通信学会、日本技術士会 情報工学部会
後援：独立行政法人情報処理推進機構

2) 協賛：日本Linux協会、The Linux Foundation、日本情報システム・ユーザ協会、情報サービス産業協会、電子情報技術産業協会、電子情報通信学会

3.4 プログラミング・シンポジウム

| 名称 | 開催年月 | 場所 | 演題数 | 参加数 |
|----------------------|----------------|---------|-----|-----|
| 夏のプログラミング・シンポジウム2012 | 2012年8月25日 | IJ大会議室 | 9 | 162 |
| 第45回情報科学若手の会 | 2012年9月15日～17日 | 山喜旅館 | 13 | 61 |
| 第54回プログラミング・シンポジウム | 2013年1月11日～13日 | ラフォーレ強羅 | 22 | 97 |

3.5 IPSJ International AI Programming Contest

| 名称 | 開催年月 | 場所 | チーム数 | 参加数 | 備考 |
|-----------------------------------|------------|--------------|------|-----|----|
| Samurai Coding 2012 (Final Round) | 2012年12月9日 | 東京大学 本郷キャンパス | 12 | 48 | |

共催：東京大学大学院情報理工学系研究科

協賛：情報サービス産業協会、日本情報システム・ユーザ協会、電子情報技術産業協会、電子情報通信学会、人工知能学会、日本ソフトウェア科学会、IEEE-Computer Society、IEEE-Computer Society Japan Chapter、IEEE Japan Office

後援：文部科学省、経済産業省、外務省、情報処理推進機構

イベントスポンサー：グリー、ゴールドスポンサー：Preferred Infrastructure、インテリジェント・シーブ、日立製作所

4. 技術応用活動

4.1 個別ITフォーラム（5件）

| 名称 | 代表者名 |
|----------------------------|-------|
| サービスサイエンス | 諏訪良武 |
| ユニバーサルデザイン協創（旧名称：福祉情報システム） | 菰川友宏 |
| ITダイバーシティ | 位野木万里 |
| 高度IT人材育成 | 掛下哲郎 |
| コンタクトセンター | 宮崎義文 |

4.2 ITフォーラム関連のイベント

| 名称 | 開催年月 | 場所 | 演題数 | 参加数 | 備考 |
|-----------------------------------|------------|-----------|-----|-----|------|
| ソフトウェアアジャパン2013 「ビッグデータの潮流を探る」 | 2013年2月15日 | 一橋講堂（NII） | 4 | 594 | 1, 2 |

1) 協賛：日本情報システム・ユーザ協会、情報サービス産業協会、電子情報技術産業協会、電子情報通信学会、先端IT活用推進コンソーシアム、日本ソフトウェア科学会

後援：文部科学省、経済産業省、総務省、情報処理推進機構、スポンサー：6団体、サポーター：32団体

2) 4件の招待講演のほかパネル討論、SJワードセレモニー、8件のITフォーラム（他団体連携5件（IPA・JUAS・JISA・JEITA・先端IT））、1件のデモを開催

5. 支部活動(役員会等は除く)

5.1 北海道支部

- ・ 情報処理北海道シンポジウム2012(10月6日、北海道大学) 演題数65件、参加者数111名
- ・ 支部講演会 5回(6月15日、6月26日、12月19日、'13年1月21日、3月2日)

5.2 東北支部

- ・ 電気関係学会東北支部連合大会(8月30-31日、秋田県立大学) 演題数263件、参加者数503名
- ・ 支部研究会 6回(12月3日、12月10日、12月22日、'13年2月1日、2月13日、3月11日)
- ・ 支部セミナー3回(10月6-7日、11月1日、12月25-26日、)
- ・ 支部講演会 2回(11月19日、12月21日)

5.3 東海支部

- ・ 電気関係学会東海支部連合大会(9月24-25日、豊橋技術科学大学) 演題数657件、参加者数1,069名
- ・ 講演会 7回(5月14日、6月14日、10月3日、10月29日、11月20日、12月3日、'13年3月2日)
- ・ 研究会 9回(協賛等)

5.4 北陸支部

- ・ 特別講演会 1回(5月25日)
- ・ 研究講演会 5回(11月30日(3件)、12月12日(2件))
- ・ 電気関係学会北陸支部連合大会(9月1-2日、富山県立大学) 演題数350件、参加者数524名
- ・ 見学会('13年3月1日、セーレン(株)ビスコテックスセンター 参加者数11名)
- ・ 北陸地区学生による研究発表会('13年3月9日、石川高専)

5.5 関西支部

- ・ 関西支部支部大会(9月21日、大阪大学中之島センター) 演題数83件、参加者数195名
- ・ 支部研究会:ものづくり基盤コンピューティングシステム研究会 2回(9月21日、'13年3月)、社会知能研究会 2回(9月21日、'13年2月1日、3月)、実証的ソフトウェア工学研究会 2回(9月21日、11月11-12日)、並列分散処理研究会 1回(9月21日)、ネットワークサービス研究会 1回(9月21日)、言語情報分析研究会 1回(9月21日)
- ・ 支部セミナー 2回(8月31日、10月27-28日)
- ・ 講演会 2回(7月29日、11月11日)
- ・ 連続セミナー2012(遠隔会場) 6回(6月25日、7月17日、9月25日、10月10日、11月19日、12月6日)

5.6 中国支部

- ・ 電気・情報関連学会中国支部連合大会(10月20日、島根大学) 演題数317件、参加者数528名
- ・ 講演会12回(5月11日、5月17日、7月19日、8月3日、10月13日、10月13日、10月30日、11月30日、'13年1月23日、1月28日、2月28日、3月18日)
- ・ イブニングセミナー 1回(12月13日)
- ・ 講習会 4回(9月20日、10月25日、10月25日、12月14日)

5.7 四国支部

- ・ 電気系学会四国支部連合大会(9月29日、四国電力(株)総合研修所) 発表者数368名、参加者数514名
- ・ 共催事業 4回(7月13日、11月23-24日、'13年2月28日-3月2日、3月9日) オープンソースカンファレンス、プロコンEPOCH@まつやま含む
- ・ 講演会 5回(11月8日、11月12日、12月7日、'13年1月15日、1月23日)

5.8 九州支部

- ・ 電気関係学会九州支部連合大会(9月24-25日、長崎大学) 講演登録件数575件、聴講者数858名
- ・ 若手の会セミナー(9月7-8日、虹の松原ホテル)
- ・ Korean-Japan Joint Workshop on ICT(9月20-22日、浦項工科大学) 講演数46件、参加者数44名
- ・ 火の国情報シンポジウム2012('13年3月14-15日、熊本大学)
- ・ 講演会等 3回(5月19日-9月2日、5月31日、6月29日)
- ・ 特別事業 1回('13年2月21日)
- ・ 特別施策(10月1日-Webサイトリニューアル運用開始)

付3．刊行物（機関誌・図書）一覧

1．会誌「情報処理」（月刊）

| 発行年月日 | 巻 | 号 | 特集テーマ | その他参考 | | |
|-------------|----|----|--|-------|------|------|
| | | | | 記事数 | 本文頁数 | 広告頁数 |
| 2012年4月15日 | 53 | 5 | CGMの現在と未来：初音ミク，ニコニコ動画，ピアプロの切り拓いた世界 | 17 | 91 | 6 |
| 2012年5月15日 | 53 | 6 | コンピュータグラフィクスの新展開 | 20 | 93 | 4 |
| 2012年6月15日 | 53 | 7 | 大学教育の質保証 | 18 | 107 | 6 |
| 2012年7月15日 | 53 | 8 | スーパーコンピュータ「京」 夏休み自作自習：(1) 3Dプリンタで遊ぼう / (2) Processing ではじめるKinectプログラミング | 37 | 139 | 6 |
| 2012年8月15日 | 53 | 9 | 金融市場における最新情報技術 | 24 | 123 | 6 |
| 2012年9月15日 | 53 | 10 | コンシューマが切り拓くデジタル化社会の新しい潮流 航空管制におけるIT | 21 | 123 | 6 |
| 2012年10月15日 | 53 | 11 | 観光情報学 | 22 | 123 | 8 |
| 2012年11月15日 | 53 | 12 | 電子書籍の未来 | 16 | 101 | 4 |
| 2012年12月15日 | 54 | 1 | 人間中心設計 | 15 | 83 | 0 |
| 2013年1月15日 | 54 | 2 | デジタルファブリケーション | 17 | 101 | 4 |
| 2013年2月15日 | 54 | 3 | IT・ソフトウェア特許の新潮流～活用・防御から標準化まで～ コンピュータ囲碁の最前線～九路盤囲碁のイベントから～ | 22 | 105 | 8 |
| 2013年3月15日 | 54 | 4 | モビリティの進化～先進的な交通社会を目指して～ 新年度企画：研究会活動紹介 | 54 | 139 | 6 |

2．「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊）

オンライン刊行のみ

| 発行年月日 | 巻 | 号 | 特集テーマ | その他参考 | | |
|-------------|----|----|---|-------|--------|------|
| | | | | 論文数 | レコノート数 | 本文頁数 |
| 2012年4月15日 | 53 | 4 | インタラクションの理解および基盤・応用技術 | 29 | 3 | 329 |
| 2012年5月15日 | 53 | 5 | Special Issue:Theory and Application of Intelligent Information Technology | 25 | 0 | 235 |
| 2012年6月15日 | 53 | 6 | パズルの数理 | 22 | 0 | 174 |
| 2012年7月15日 | 53 | 7 | 社会を元気にするICT | 27 | 2 | 322 |
| 2012年8月15日 | 53 | 8 | --- | 12 | 2 | 145 |
| 2012年9月15日 | 53 | 9 | スマートな社会を実現するコンピュータセキュリティ技術 | 26 | 0 | 289 |
| 2012年10月15日 | 53 | 10 | --- | 5 | 1 | 63 |
| 2012年11月15日 | 53 | 11 | エージェントの理論とその応用 / ゲームプログラミング | 32 | 0 | 334 |
| 2012年12月15日 | 53 | 12 | 組込みシステム工学 | 20 | 0 | 249 |
| 2013年1月15日 | 54 | 1 | 教育とコンピュータ / より豊かで安心・安全な社会を実現するためのコラボレーション技術とネットワークサービス / 使うシステムから使えるシステムへ / 情報通信社会の新潮流をつくるモバイル通信と高度交通システム | 47 | 0 | 507 |
| 2013年2月15日 | 54 | 2 | 音声ドキュメント処理 / ネットワークサービスと分散処理 / ソフトウェア工学 | 60 | 1 | 656 |
| 2013年3月15日 | 54 | 3 | 危機管理の視点を考慮したインターネットと運用技術 | 23 | 2 | 263 |

3. 「Journal of Information Processing (JIP)」(季刊)

| オンライン刊行のみ | | | | その他参考 | | |
|-------------|----|---|-----|-------|-----------|------|
| 発行年 | 巻 | 号 | 備考 | 論文数 | テクニカルノート数 | 本文頁数 |
| 2012年4月15日 | 20 | 2 | --- | 18 | 2 | 184 |
| 2012年7月15日 | 20 | 3 | --- | 35 | 0 | 282 |
| 2012年10月15日 | 20 | 4 | --- | 8 | 0 | 77 |
| 2013年1月15日 | 21 | 1 | --- | 15 | 0 | 155 |

4. 「情報処理学会論文誌(トランザクション)」(不定期、8誌)

| オンライン刊行のみ | | | | その他参考 | |
|-------------|---|---|----------------------------------|-------|------|
| 発行年月日 | 巻 | 号 | トランザクション名 | 論文数 | 本文頁数 |
| 2012年8月20日 | 5 | 3 | プログラミング | 5 | 67 |
| 2012年9月4日 | 5 | 4 | プログラミング | 3 | 47 |
| 2013年1月24日 | 6 | 1 | プログラミング | 3 | 29 |
| 2012年6月14日 | 5 | 2 | 数理モデル化と応用 | 6 | 63 |
| 2012年9月28日 | 5 | 3 | 数理モデル化と応用 | 11 | 119 |
| 2013年3月12日 | 6 | 1 | 数理モデル化と応用 | 17 | 171 |
| 2012年6月29日 | 5 | 2 | データベース | 5 | 52 |
| 2012年9月28日 | 5 | 3 | データベース | 12 | 148 |
| 2013年1月23日 | 6 | 1 | データベース | 3 | 40 |
| 2013年3月29日 | 6 | 2 | データベース | 7 | 97 |
| 2012年5月29日 | 5 | 3 | コンピューティングシステム | 11 | 136 |
| 2012年8月24日 | 5 | 4 | コンピューティングシステム | 10 | 124 |
| 2012年10月15日 | 5 | 5 | コンピューティングシステム | 15 | 176 |
| 2013年1月31日 | 6 | 1 | コンピューティングシステム | 8 | 98 |
| 2012年7月26日 | 2 | 2 | コンシューマ・デバイス&システム | 9 | 90 |
| 2012年12月19日 | 2 | 3 | コンシューマ・デバイス&システム | 6 | 65 |
| 2013年3月13日 | 3 | 1 | コンシューマ・デバイス&システム | 9 | 97 |
| 2013年3月28日 | 3 | 2 | コンシューマ・デバイス&システム | 2 | 16 |
| 2012年4月19日 | 5 | - | Bioinformatics | 2 | 16 |
| 2012年6月29日 | 5 | - | Bioinformatics | 1 | 10 |
| 2013年3月25日 | 6 | - | Bioinformatics | 1 | 7 |
| 2012年8月6日 | 5 | - | System LSI Design Methodology | 6 | 79 |
| 2013年2月15日 | 6 | - | System LSI Design Methodology | 8 | 74 |
| 2012年4月10日 | 4 | - | Computer Vision and Applications | 1 | 10 |
| 2012年5月30日 | 4 | - | Computer Vision and Applications | 3 | 24 |
| 2012年7月25日 | 4 | - | Computer Vision and Applications | 1 | 13 |
| 2012年9月18日 | 4 | - | Computer Vision and Applications | 1 | 8 |
| 2012年10月19日 | 4 | - | Computer Vision and Applications | 5 | 62 |
| 2012年12月25日 | 4 | - | Computer Vision and Applications | 1 | 9 |
| 2013年1月24日 | 5 | - | Computer Vision and Applications | 1 | 18 |

5. 「情報処理学会デジタルプラクティス」(年4回)

| | | | | その他参考 | |
|-------------|---|---|-----------------|-------|------|
| 発行年月日 | 巻 | 号 | 特集テーマ | 論文数 | 本文頁数 |
| 2012年4月15日 | 3 | 2 | 高度IT資格制度 | 11 | 102 |
| 2012年7月15日 | 3 | 3 | 減災ICT | 7 | 70 |
| 2012年10月15日 | 3 | 4 | 情報が観光を創る・磨く・鍛える | 9 | 88 |
| 2013年1月15日 | 4 | 1 | ビッグデータに備える | 9 | 94 |

6. その他出版（新刊）

判型：B5

いずれも、判型：A5、委託出版社名：オーム社

| 発行年月 | 書籍名 | 発行部数 | 本文頁数 |
|------------|------------------------|-------|------|
| 2012年8月25日 | IT textシリーズ 数理最適化 1版1刷 | 2,000 | 272 |

7. その他出版（重版）

いずれも、判型：A5、委託出版社名：オーム社

| 発行年月 | 書籍名 | 発行部数 | 本文頁数 |
|-------------|---------------------------------------|-------|------|
| 2012年8月25日 | IT textシリーズ 音声認識システム 1版10刷 | 100 | 214 |
| 2012年9月20日 | IT textシリーズ 自然言語処理 1版5刷 | 500 | 182 |
| 2012年9月20日 | IT textシリーズ コンピュータグラフィックス 1版6刷 | 400 | 268 |
| 2012年10月5日 | IT textシリーズ プログラム仕様記述論 1版6刷 | 65 | 192 |
| 2012年10月30日 | IT textシリーズ インターネットプロトコル 1版2刷 | 300 | 272 |
| 2013年1月20日 | IT textシリーズ オペレーティングシステム 1版16刷 | 1,300 | 230 |
| 2013年1月20日 | IT textシリーズ ソフトウェア開発 1版13刷 | 600 | 212 |
| 2013年1月20日 | IT textシリーズ 認知インタフェース 1版9刷 | 600 | 248 |
| 2013年1月20日 | IT Textシリーズ 人工知能 1版7刷 | 300 | 188 |
| 2013年2月15日 | IT Textシリーズ データマイニングの基礎 1版5刷 | 500 | 286 |
| 2013年2月20日 | IT textシリーズ 情報セキュリティ 1版10刷 | 400 | 268 |
| 2013年2月20日 | IT textシリーズ アルゴリズム論 1版11刷 | 500 | 230 |
| 2013年2月20日 | IT textシリーズ 情報と職業 1版11刷 | 600 | 222 |
| 2013年2月20日 | IT textシリーズ データベース 1版12刷 | 500 | 196 |
| 2013年2月20日 | IT textシリーズ ヒューマンコンピュータインタラクション 1版14刷 | 1,600 | 240 |
| 2013年2月20日 | IT textシリーズ 基礎Web技術 1版10刷 | 600 | 188 |
| 2013年2月20日 | IT textシリーズ コンパイラとバーチャルマシン 1版10刷 | 400 | 212 |
| 2013年2月20日 | IT Textシリーズ（一般教育） 情報システム基礎 1版6刷 | 400 | 218 |
| 2013年2月20日 | IT textシリーズ 分散処理 1版2刷 | 400 | 228 |
| 2013年2月25日 | IT textシリーズ ソフトウェア工学演習 1版9刷 | 300 | 228 |
| 2013年3月30日 | IT textシリーズ 応用Web技術 1版6刷 | 126 | 210 |

付4．国際会議一覧

以下は、2012年度内に終了報告が完了した国際会議

| 名称 | 開催年月 | 場所 | 参加数 | 内 海外参加 | 海外 共催団体 |
|--|-----------------|------------|------|-----------|----------------------|
| 14th Conference on Optical Network Design and Modeling (ONDM2010) | 2010年1月31日-2月3日 | 日本（京都） | 82名 | 30名 | IFIP-TC6, IEEE-CS |
| The 10th International Symposium on Autonomous Decentralized Systems (ISADS2011) | 2011年6月29日～7月1日 | 日本（神戸） | 152名 | 52名 | IEEE-CS |
| The 2011 Symposium on Applications and the Internet (SAINT2011) | 2011年7月18-22日 | ドイツ（ミュンヘン） | 161名 | --- | IEEE-CS |
| The 6th International Workshop on Security (IWSEC2011) | 2011年11月8-10日 | 日本（東京） | 91名 | 11名 | --- |
| 6th International Conference on Collaboration Technologies (CollabTech2012) | 2012年8月27-29日 | 日本（北海道） | 68名 | 32名 | --- |

付5.表彰等

*いずれも所属()内は選定当時、掲載は順不同、敬称略

1. 新名誉会員(1名) [2013年度定時総会(2013年6月)表彰][理事会(2013年1月)]

・白鳥則郎(早大/東北大)

2. 功績賞(3名)・顕功賞:該当なし [2013年度定時総会(2013年6月)表彰][功績賞選定委員会(2013年3月)]

・竹内郁雄(早大) ・坂内正夫(NII) ・岡本栄司(筑波大)

3. 新フェロー(13名) [2013年度定時総会(2013年6月)表彰][フェロー選定委員会(2013年2月)]

・安達 淳(NII) 「電子文書処理に関するサービスの実現と研究開発への貢献」
・岩村恵市(東京理科大) 「JPEG2000に関するセキュリティ技術標準化およびコンテンツ保護技術活性化に対する貢献」
・小谷善行(東京農工大) 「コンピュータ将棋および思考ゲーム情報学の研究分野確立に対する貢献」
・川合 慧(放送大) 「一般情報教育の普及・推進、コンピュータグラフィックスの標準化、学会誌充実への貢献」
・佐藤三久(筑波大) 「クラスタおよびグリッドコンピューティングにおける高性能並列計算技術に対する貢献」
・砂原秀樹(慶大) 「日本におけるインターネットの発展およびセンサネットワーク分野の発展に対する貢献」
・谷口秀夫(岡山大) 「分散処理オペレーティングシステムの研究開発と実用化」
・谷口倫一郎(九大) 「コンピュータビジョンシステムの研究開発および学会活動に対する貢献」
・近山 隆(東大) 「ソフトウェア構築基盤の研究に対する貢献」
・宗森 純(和歌山大) 「グループウェアの研究開発に対する貢献」
・安信千津子(日立) 「意思決定支援を中心とした情報システムへの貢献および学会運営への貢献」
・山崎克之(長岡技科大) 「インターネット高信頼化の研究ならびに国際会議SAINTへの貢献」
・Barolli Leonard(福岡工大) 「知的アルゴリズムによるネットワーク制御に関する研究と国際化への貢献」

4. 論文賞(13件61名) [2013年度定時総会(2013年6月)表彰][論文賞選定委員会(2013年2月)]

(1) 情報処理学会論文賞

・インタラクティブ遊具を用いた子どもの遊び行動と発達の分析 井上美喜子、西田佳史、北村光司(産総研)、大内久和(Spee)
金 一雄、本村陽一(産総研)、溝口 博(東京理科大)、城 仁士(神戸大)
・音声会話コンテンツにおける聴衆の反応に基づく音響イベントとホットスポットの検出
河原達也、須見康平(京大)、緒方 淳、後藤真孝(産総研)
・Gigabit/10 Gigabit Ethernetに対応した高効率TCP/IPオフロードエンジン
田中信吾、山浦隆博、山口健作、菅沢延彦、谷澤佳道、渋谷尚久(東芝)
・ログの改ざんと喪失を防止するシステムの仮想計算機モニタによる実現 佐藤将也、山内利宏(岡山大)
・App.Locky: コンテキスト依存型サービス推薦を目的としたユーザ状況収集プラットフォーム
矢野幹樹、梶 克彦、河口信夫(名大)
・患者固有の形状データに基づく手術手技訓練用シミュレータ
緒方正人、長坂 学、乾谷 徹、坂本英男、高波健太郎(三菱プレジジョン)、槇山和秀、窪田吉信(横浜市大)

(2) Journal of Information Processing Outstanding Paper Award

・An Adaptive Route Selection Mechanism Per Connection Based on Multipath DNS Round Trip Time on Multihomed Networks
Yong Jin, Nariyoshi Yamai, Kiyohiko Okayama(岡山大), Motonori Nakamura(NII)
・Joint Phrase Alignment and Extraction for Statistical Machine Translation
Graham Neubig(京大), Taro Watanabe, Eiichiro Sumita(NICT), Shinsuke Mori, Tatsuya Kawahara(京大)

(3) 情報処理学会論文誌 数理モデル化と応用 優秀論文賞

・フェロモン・コミュニケーションによるロボット群の協調運搬 藤澤隆介(八戸工大)、今村 光(デンソー)、松野文俊(京大)

(4) 情報処理学会論文誌 データベース 優秀論文賞

・Random walk with restartに対する高速な検索手法 藤原靖宏、中辻 真、鬼塚 真(NTT)、喜連川優(東大)

(5) 情報処理学会論文誌 コンピューティングシステム 優秀論文賞

・マルチコアCPUの電力消費特性を考慮した仮想CPUスケジューラ
吉田哲也、山田浩史(慶大)、佐々木広(東大)、河野健二(慶大)、中村 宏(東大)

- ・共有資源の競合を考慮したチップマルチプロセッサ向け低消費電力化手法

佐々木広、高木紀子（東大）、近藤正章（電通大）、中村 宏（東大）

(6) IPSJ Transactions on Computer Vision and Applications Outstanding Paper Award

- ・Entire Shape Acquisition Technique Using Multiple Projectors and Cameras with Parallel Pattern Projection

Ryo Furukawa（広島市大）、Ryusuke Sagawa（産総研）、Hiroshi Kawasaki（鹿児島大）

Kazuhiro Sakashita, Yasushi Yagi（阪大）、Naoki Asada（広島市大）

5. 喜安記念業績賞（4件16名、*：代表貢献者） [2013年度定時総会（2013年6月）表彰] [喜安記念業績賞選定委員会（2013年3月）]

- ・「ペアリング暗号解読の世界記録達成および安全な次世代暗号の選定」

*高木 剛、林 卓也（九大）、篠原直行（NICT）、下山武司（富士通研）

- ・「隠れマルコフモデルに基づいた次世代音声合成方式の確立」

*徳田恵一（名古屋工大）、戸田智基（奈良先端大）、全 炳河（Google, London）

山岸順一（Univ. Edinburgh）、大浦圭一郎（名古屋工大）

- ・「音声エージェントサービス「しゃべってコンシェル」の開発」

*吉村 健、内田 渉、飯塚真也、辻野孝輔（NTTドコモ）、東中竜一郎（NTT）

- ・「質問応答技術の研究開発とその実用化」

*武田浩一、金山 博（日本IBM）

6. 長尾真記念特別賞（3名） [2013年度定時総会（2013年6月）表彰] [長尾真記念特別賞選定委員会（2013年2月）]

- ・大内一成（東芝） 「ウェアラブルセンシングによる状況認識技術とヒューマンインタフェースの研究開発」

- ・首藤一幸（東工大） 「オーバレイネットワークのアルゴリズムおよび基盤ソフトウェア」

- ・長原 一（九州大） 「コンピュータショナルフォトグラフィによる画像の認識理解の研究」

7. 山下記念研究賞（53名） [第75回全国大会（2013年3月）表彰] [各領域委員会（2012年7月）]

< コンピュータサイエンス領域 >

- ・推薦システムにおけるユーザ関与とユーザ満足度に関する研究 [データベースシステム] 土方嘉徳（阪大）

- ・Affinity Propagation のための高速化手法 [データベースシステム] 藤原靖宏（NTT）

- ・設計モデルを利用したテスト用データベース自動生成手法 [ソフトウェア工学] 丹野治門（NTT）

- ・オープンソースソフトウェアにおけるコメント記述及びコメントアウトとフォールト潜在との関係に関する定量分析 [ソフトウェア工学] 阿萬裕久（愛媛大）

- ・OpenCLの性能可搬性改善に向けた基本APIの提案 [計算機アーキテクチャ] 京 昭倫（ルネサスエレクトロニクス）

- ・BTBへのBimode Cascading手法適用による分岐先アドレス予測の高効率化 [計算機アーキテクチャ] 石井康雄（NEC/東大）

- ・Sheepdog: 仮想マシンのための対称型クラスタストレージ [システムソフトウェアとオペレーティング・システム] 森田和孝（NTT）

- ・反例と設計分割に基づく高位設計に対する効率的な設計修正支援手法 [システムLSI設計技術] 松本剛史（東大）

- ・スキャンングネチャを用いたTriple DESに対するスキャンベース攻撃手法 [システムLSI設計技術] 小寺博和（早大）

- ・演算加速装置に基づく超並列クラスタHA-PACSIによる大規模計算科学 [ハイパフォーマンスコンピューティング] 朴 泰祐（筑波大）

- ・大規模グラフ処理ベンチマークGraph500への2次元分割の適用と性能評価 [ハイパフォーマンスコンピューティング] 上野晃司（東工大）

- ・マークスイープごみ集めのマークスタック溢れ時の性能改善 [プログラミング] 鶴川始陽（電通大）

- ・Simple Memory Machine Models for GPUs [アルゴリズム] 中野浩嗣（広島大）

- ・ユーザシステム協調型進化計算を用いた2次元コード装飾 [数値モデル化と問題解決] 小野智司（鹿児島大）

- ・大規模移動体ネットワーク機器ファームウェア開発へのソフトウェアプロダクトライン適用事例 [組込みシステム] 大塚 潤（富士通九州ネットワークテクノロジーズ）

< 情報環境領域 >

- ・快適度の低下を最小限に抑える省エネデバイス制御手法 [マルチメディア通信と分散処理] 安本慶一（奈良先端大）

- ・中間表現とフレームワークを用いたWebアプリケーションのメンテナンス法の提案と評価 [マルチメディア通信と分散処理] 早川智一（明治大）

- ・ゲシュタルト理論に基づく思いこみ修正支援HCIモデル [ヒューマンコンピュータインタラクション] 池田文人（北大）

- ・虚偽情報フィードバックを用いた生体情報の制御システム [ヒューマンコンピュータインタラクション] 中村憲史（神戸大）

- ・リアルタイムスキンシェーダとしての曲率に依存する反射関数の提案と実装 [グラフィクスとCAD] 久保尋之（キヤノン）

- ・画像における映り込みのマッピングと合成 [グラフィクスとCAD] 遠藤結城 (NTT)
- ・スマートメータとSNS連携による再生可能エネルギー利活用促進に関する取り組み [情報システムと社会環境] 佐々木隆志 (愛媛大)
- ・統計的フレーズ翻訳モデルを用いた言語横断質問応答 [情報基礎とアクセス技術] 有賀美明 (日立ICS)
- ・複数の予測器出力に連動する多峰性確率モデルによる静止画像の可逆符号化 [オーディオビジュアル複合情報処理] 柴崎俊亮 (NTT東日本)
- ・タスクへの集中維持と癖の矯正促進を両立する情報通知手法の提案 [グループウェアとネットワークサービス] 菊川真理子 (楽天)
- ・Web会議における発話衝突回避のための発話欲求伝達手法 [グループウェアとネットワークサービス] 玉木秀和 (NTTコム)
- ・テキストに現れる感情, コミュニケーション, 動作タイプの推定に基づく顔文字の推薦 [デジタルドキュメント] 関 洋平 (筑波大)
- ・グループ行動コンテキストを活用した近隣スマートフォンユーザ群の位置関係認識 [モバイルコンピューティングとユビキタス通信] 樋口雄大 (阪大)
- ・モバイル端末における低優先度通信のための低負荷パケットスケジューリング方式 [モバイルコンピューティングとユビキタス通信] 山本享弘 (コア)
- ・Android OSにおける機能や情報へのアクセス制御機構の提案 [コンピュータセキュリティ] 川端秀明 (KDDI研)
- ・数値属性における, k-匿名性を満たすランダム化手法 [コンピュータセキュリティ] 五十嵐大 (NTT)
- ・ストリーム処理を用いた車々間通信データのフィルタリング方式 [高度交通システム] 勝沼 聡 (日立)
- ・詳細が未知の部分を含むシステムの性能評価モデル作成手法の提案 [システム評価] 木村大地 (NEC)
- ・ActivityAnalyzer: 携帯電話搭載センサによるリアルタイム生活行動認識システム [ユビキタスコンピューティングシステム] 大内一成 (東芝)
- ・移動透過IPマルチキャストに対応するグローバルライブマイグレーションの設計と性能評価 [インターネットと運用技術] 鎌田恵介 (日本IBM)
- ・レイヤ3スイッチを用いた大規模なホワイトリストに対応可能な電子メール優先配送システム [インターネットと運用技術] ガーダ (岡山大)
- ・携帯カメラを使った脈拍検出方式 [コンシューマデバイス&システム] 中野泰彦 (富士通研)

<メディア知能情報領域>

- ・An ILP Formulation of Abductive Inference for Discourse Interpretation [自然言語処理] 井之上直也 (東北大)
- ・近赤外ワンショット形状計測による動体3D映像撮影 [コンピュータビジョンとイメージメディア] 阪下和弘 (阪大)
- ・超精度くりこみ法 [コンピュータビジョンとイメージメディア] 金谷健一 (岡山大)
- ・大震災で見えてきた情報教育の課題 [コンピュータと教育] 奥村晴彦 (三重大)
- ・ブロックエディタ方式によるプログラミング構造化教育支援システム [コンピュータと教育] 保井 元 (スズキ教育ソフト)
- ・古代木簡解読支援のための画像処理および字体検索の高度化 [人文科学とコンピュータ] 末代誠仁 (桜美林大)
- ・Linked Open Dataによる博物館情報および地域情報の連携活用 [人文科学とコンピュータ] 松村冬子 (NII)
- ・スペクトログラムのベイジアンノンパラメトリックモデリングに基づく音楽信号の解析 [音楽情報科学] 中野允裕 (NTT)
- ・条件付きエントロピー最小化基準に基づくマルチカーネル学習を用いた発話スタイル変動に頑健な話者照合 [音声言語情報処理] 小川哲司 (早大)
- ・著作権への固定資産税課税の提案~著作権制度とパブリックドメインコンテンツ点数の関係 [電子化知的財産・社会基盤] 源 直人 (情報セキュリティ大)
- ・探索が必要となる確率を用いた並列 探索のスケジューリング [ゲーム情報学] 浦 晃 (東大)
- ・身体性を考慮した着ぐるみ装着者支援システムの設計と実装 [エンタテインメントコンピューティング] 岡崎辰彦 (神戸大)
- ・FuwaFuwa: 反射型光センサによる柔軟物体への接触位置および圧力の計測手法の提案とその応用 [エンタテインメントコンピューティング] 杉浦裕太 (慶大)
- ・双対分解によるRNA構造アラインメント [バイオ情報学] 佐藤健吾 (慶大)
- ・An Improved Clique-Based Method for Computing Edit Distance between Rooted Unordered Trees [バイオ情報学] 森 智弥 (京大)
- ・CMS/LMS環境で利用できるスマートケータイ出席確認小テストシステムS-maqs [教育学習支援情報システム] 植木泰博 (ニュータイプシステムズ)

8. 大会優秀賞・大会奨励賞 [第75回全国大会 (2013年3月) 表彰] [第74回全国大会 大会優秀賞・大会奨励賞選定委員会]

(1) 大会優秀賞 (8名)

- ・赤池洋俊 (日立製作所)
- ・石塚宏紀 (東大)
- ・小林 学 (湘南工科大)
- ・中澤 真 (会津大学短期大学部)
- ・西川記史 (東大)
- ・西村知也 (NECシステムソリューションズ)
- ・濱岡 豊 (慶大)
- ・宮原景泰 (三菱電機)

(2) 大会奨励賞 (11名)

- ・板宮朋基 (東京工科大)
- ・川口将吾 (名古屋工大)
- ・衣笠成輝 (立命館大)
- ・木村光樹 (東大)
- ・串岡 聡 (静岡大)
- ・式見遼君 (芝浦工大)
- ・田中勇真 (名大)
- ・堤 貴浩 (名古屋工大)
- ・萩谷俊幸 (KDDI研)
- ・松村聖司 (NTT)
- ・渡邊和樹 (立命館大)

9. 教育賞

[2012年度定時総会 (2013年6月) 表彰] [情報処理教育委員会 (2013年3月)]

(1) 優秀教育賞 (1件)

優秀教材賞は今回該当なし

- ・掛下哲郎 (佐賀大) 「情報専門教育における質保証」に関する貢献

10. 若手奨励賞 (16件)

[当該コンテストにて表彰] [若手奨励賞選定委員会 (2012年4月~2013年3月)]

< 第18回スーパーコンピューティングコンテスト (2012年8月) >

- ・大阪府立大学工業高専チーム “ TheSunny ” 三上和馬、帖佐克己、西川剛史 (大阪府立大学工業高専)

< 第23回全国高等専門学校プログラミングコンテスト (2012年10月) 課題部門 >

- ・弓削商船高専チーム “ healTeeth 歯みがきで輝く未来 ” 岩本華代子、奥田紗千、山形真名美 (弓削商船高専)

< 第23回全国高等専門学校プログラミングコンテスト (2012年10月) 自由部門 >

- ・香川 (詫間) 高専チーム “ Top Balancer ” 大矢慎之介、向山虹祐、梶 拓也、HENG SIVEHONG、西川 翼 (香川高専)

< 第23回全国高等専門学校プログラミングコンテスト (2012年10月) 競技部門 >

- ・宇部高専チーム “ 常盤は賽を振らない ” 石田竹至、大濱勇平、金子昂稔 (宇部高専)

< パソコン甲子園2012 プログラミング部門 (2012年11月) >

- ・「stack~」 村井翔悟、北村 寛 (開成高校)
- ・「queue進左派連合」 笠浦一海、秀 郁未 (開成高校)
- ・「UNAGEEL」 劉 鴻志、小森雄太 (栄光学園高校)

< パソコン甲子園2012 デジタルコンテンツ部門 (2012年11月) >

- ・「Numeric」 久松航平、正木彩花 (沖縄工業高専)
- ・「情報デザイン部」 丹羽 巧、牧野聖久 (愛知工業大名電高校)
- ・「アレックス」 川合清香、丸山彩音 (静岡県立伊東高校)

< パソコン甲子園2012 モバイル部門 (2012年11月) >

- ・「フレッシュクオリティ」 照屋大地、吳屋寛裕、西原希咲 (沖縄工業高専)
- ・「T-skynet」 久保 涉、石瀬健吾、杉田 大 (富山県立富山工業高)
- ・「くるメン!!」 辻 巧斗、坂梨元軌、真次彰平 (久留米工業高専)

< 第12回日本情報オリンピック (2013年3月) >

- ・劉 鴻志 (栄光学園高)
- ・岩井龍之介 (灘中)
- ・熊崎剛生 (筑波大学附属駒場高)

11. 学会活動貢献賞 / 感謝状

[2013年度定時総会 (2013年6月) 表彰] [総務財務運営委員会 (2013年1月)]

(1) 学会活動貢献賞: 「学会誌における編集業務への貢献」 (1名)

- ・後藤真孝 (産総研)

(2) 学会活動貢献賞: 「論文誌への査読貢献」 (3名)

- ・屋代智之 (千葉工大)
- ・山内利宏 (岡山大)
- ・橋本浩二 (岩手県立大)

(3) 学会活動貢献賞: 「デジタルプラクティスへの査読貢献」 (1名)

- ・折原良平 (東芝)

12. 支部関係

[各支部総会・支部連合大会等にて表彰] [各支部]

< 北海道 >

- (1) 研究奨励賞 (5名) ・劉 浩 ・高橋麻希子 ・桑野孝光 ・荒川祐真 ・成田卓也
- (2) 学術研究賞 (1件) ・富澤勇介、高井昌彰
- (3) 技術研究賞 (2件) ・吉田昌平、中村武道、阿部勇人、加藤裕美、高木正則、山田敬三、佐々木淳
- ・新田健人、長崎 健、戸田真志、平田圭二、松原 仁
- (4) ポスター賞 (4名) ・阿部裕介 ・清水新太郎 ・佐藤昌俊 ・矢田和也
- (5) 工業高専奨励賞 (4名) ・菊池亮太 ・吉井和輝 ・青島春花 ・久保内悠馬

<東北>

- (1) 学生奨励賞 ・三関拓也 ・澤里貴大 ・加賀谷享諒 ・藤原浩司 ・仙道 航 ・谷津圭祐 ・遠藤崇江
・和田慎二郎 ・生出拓馬 ・渡部真伍 ・片桐雅貴 ・佐藤雅宏
- (2) 支部奨励賞
- (3) 野口研究奨励賞

<東海>

- (1) 電気関係学会東海支部連合大会奨励賞(10名)
・東 拓実 ・都築 礼 ・戸田英治 ・長田若奈 ・中元寿幸
・芳賀光瑠 ・坂 涼司 ・横井孝祐 ・奥村 命 ・松尾雄作
- (2) 支部学生論文奨励賞(8名) ・小澤俊介 ・柴田誠也 ・田中 剛 ・陳 暘 ・伴 拓也 ・廣瀬勇也 ・松本真樹 ・山田晃

<北陸>

- (1) 優秀論文発表賞(5名) ・水上達也 ・山北将平 ・中田明秀 ・宮崎小玉 ・松井祐太
- (2) 優秀学生表彰(13名) ・森田奈々 ・橋本啓椰 ・松山麻珠 ・史 暁楠 ・早藤智暉 ・東 雄也 ・中嶋悠介
・畠中知之 ・尾山有香 ・今井友紀 ・澤潟拓希 ・須藤洸基 ・森 大和

<関西>

- (1) 学生奨励賞(5名) ・秋吉保紀 ・隅田麻由 ・金谷拓実 ・北原沙緒理 ・白井涼子

<中国>

- (1) 支部優秀論文発表賞(6名) ・今中隆裕 ・大森睦己 ・呉 歆 ・鈴木 慶 ・伊達仁美 ・藪木直人
- (2) 支部奨励賞(11名) ・天野 光 ・池田明日美 ・石村祐太 ・大船剣士朗 ・片平翔太 ・重見 悟
・柴田博彬 ・肖 霄 ・福田 暁 ・松本 翔 ・宮田 諭

<四国>

- (1) 学生奨励賞、(2) 四国支部奨励賞

<九州>

- (1) 支部奨励賞(6名) ・内野貴弘 ・浦田聖也 ・田代浩平 ・中林淳一 ・平川瑞樹 ・安永優仁郎
- (2) 火の国シンポジウム(6名) ・西岡拓也 ・児玉 晋 ・徳永正和 ・村上隆俊 ・土中哲秀 ・吉武伸泰

13. 情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館

[第75回全国大会(2013年3月)認定] [歴史特別委員会]

- (1) 情報処理技術遺産(8件) ()内は製造者、製造年
・潮候推算機(Légé社(英国)、1957年)
・FACOM 201(富士通信機製造、1960年)
・MADIC-IIAシステム一式(松下通信工業、1963年)
・東京オリンピック情報システム関連資料(日本IBM他、1964年他)
・USAC-1010(ウノケ電子工業、1966年)
・ワイヤドットプリンタ(沖電気工業、1968年)
・MARS-105用座席予約端末装置(日立製作所、1975年)
・MZ-80K(シャープ、1978~80年)
- (2) 分散コンピュータ博物館(1件)
・計算科学振興財団 高度計算科学研究支援センター展示コーナー

14. デジタルプラクティスアワード(1件1名)

[ソフトウエアジャパン2013(2013年2月)表彰] [デジタルプラクティス編集委員会]

- ・京都市動物園での情報通信技術活用への取り組み~動物園に適したインフラと動物コンテンツの活用~
吉田信明(ASTEM)、和田晴太郎、伊藤英之(京都市動物園)、澤田砂織、山内英之(ASTEM)、
長谷川淳一(京都市動物園)、中村行宏(ASTEM)

15. ソフトウエアジャパンアワード(3名)

[ソフトウエアジャパン2013(2013年2月)表彰]

- ・西川 徹(Preferred Infrastructure) 「ウェブ上の大規模データを対象とした解析・評価システムなど」
・伊藤博之(クリプトン・フューチャー・メディア) 「ユーザ作成コンテンツの浸透と展開」
・戀塚昭彦(ドワンゴ) 「ユーザ作成コンテンツの浸透と展開」

(1) FIT2012 船井業績賞 (1名) 船井情報科学振興財団主催

- ・中島秀之 (公立はこだて未来大学)

(2) FIT2012 船井ベストペーパー賞 (3件) 船井情報科学振興財団主催

- ・ポリフェーズ・フィルタ・バンクを用いた基数2kFFTに関して: 電波望遠鏡用分光器への適用
中原啓貴、中西裕之 (鹿児島大)、笹尾 勤 (九工大)
- ・折り返し翻訳は本当に役に立たないのか? ~人間の観点からみた折り返し翻訳の妥当性評価~
宮部真衣 (東大)、吉野 孝 (和歌山大)
- ・影を利用したポインティングシステムの開発
土江田織枝 (釧路工業高専)、財原ちひろ (SEIKO EPSON)、林 裕樹 (釧路工業高専)、宮尾秀俊 (信州大)

(3) FIT2012 論文賞 (3件)

- ・Two Compact Codes for Rectangular Drawings with Degree Four Vertices 斎藤雅士、中野真一 (群馬大)
- ・ポピュレーションコーディングを適用したSpikePropネットワークの耐ノイズ性の向上
新 友太、高瀬治彦、川中普晴、鶴岡信治 (三重大)
- ・ウェーブレット多重解像度成分のレジストレーションによるデジタルシネマから超高精細映像への空間超解像法の検討
松尾康孝 (早大/NHK)、岩崎真也、山村勇太、甲藤二郎 (早大)

(4) FIT2012 ヤングリサーチャー賞 (8名) FIT2013 (2013年9月) 表彰

- ・大貫智洋 (三菱電機) ・中原啓貴 (鹿児島大) ・池田和史 (KDDI研) ・宮部真衣 (東大)
- ・大久保諒 (神戸大) ・辻 聡美 (日立) ・大井悠介 (北大) ・岡田将吾 (東工大)

17. 情報規格調査会関連の表彰

(1) 標準化功績賞 (3名)

- ・瀬戸 洋一 (産業技術大学院大) ・仲林 清 (千葉工業大)

[情報規格調査会総会 (2012年5月) 表彰] [情報規格調査会]

- ・山本 和幸 (パナソニック)

(2) 標準化貢献賞 (10名)

- ・相羽 律子 (日立) ・岩元 浩太 (NEC)
- ・近藤 潤一 (IPA) ・坂本 健一 (NTTデータ)
- ・浜 壮一 (富士通研) ・原 潤一 (リコー)

[情報規格調査会総会 (2012年5月) 表彰] [情報規格調査会]

- ・植野 嘉章 (パナソニック) ・小林 正幸 (三菱電機)
- ・高橋 快昇 (富士通) ・中村 健一 (パナソニック)

(3) 国際規格開発賞 (13名: 14件)

- ・木下 佳樹 (産総研) ・江崎 和博 (法政大, 2件)
- ・高井 利憲 (産総研) ・盛合 志帆 (NICT, 2件)
- ・チェン コリアン ・宮地 充子 (北陸先端科学技術大学院大)
- ・高橋 光裕 (IPA) ・塩谷 和範 (元 SRA)

[情報規格調査会 技術委員会 表彰] [情報規格調査会]

- ・赤平 信夫 (パナソニック) ・菅谷 寿鴻 (電通大)
- ・櫻井 玄弥 (IPA) ・田中 俊昭 (KDDI研)
- ・近藤 潤一 (IPA)

(4) 工業標準化事業功労者表彰

- ・工業標準化事業表彰 経済産業大臣表彰: パナソニック
- ・国際標準化貢献者表彰 (産業技術環境局長表彰): 塩谷 和範 (元 SRA)

[工業標準化表彰式 (2012年10月) 表彰] [経済産業省]

その他および附属明細書（法定記載事項）

1. その他、内部統制の整備についての決議に該当はありません。
2. その他、事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。

以上